

世界と日本が向かう先と我々の生き方 ～人権は国家と憲法の上にある～



『認知戦争・認知支配の全貌』
からの引用を交えて

本日の資料はこちらからダウンロードできます
www.jimakudaio.com/ike-0704



自己紹介など

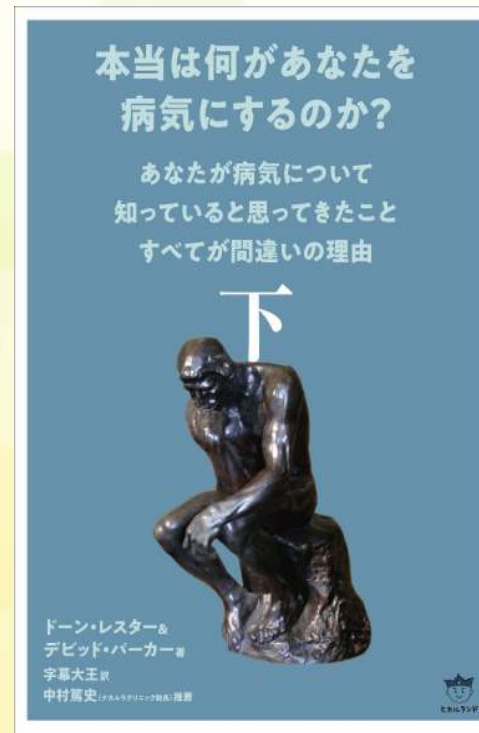
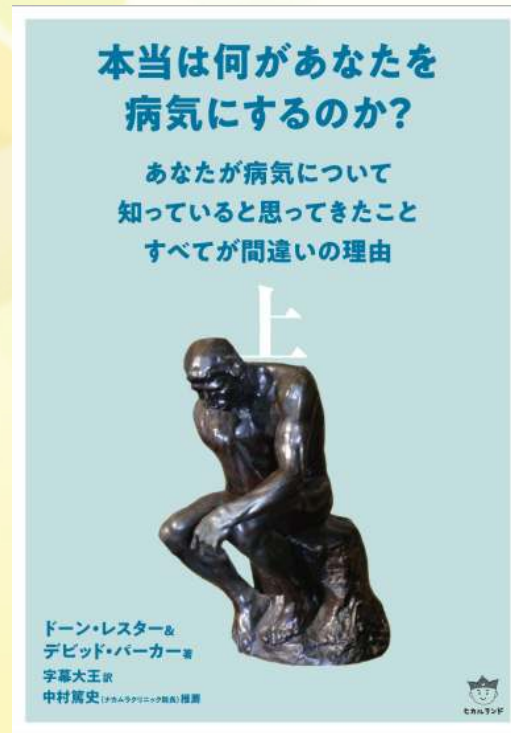


- 30年以上のあいだIT技術者
- 2013年頃に日航123便御巣鷹山事件の嘘に気づき陰謀論を
- 2016年から字幕大王開始。英語動画に字幕をつけて紹介
- 2020年に「コロナの嘘」動画を開始。ニコミ会でデモ・街宣を数十回。新生活様式・時短自粛・マスク反対、ワクチン反対など2021年当時は日本最大級のコロナ対策反対デモ
- 2021年から講演活動開始
- 2023年に一般社団法人ノーシープ立ち上げ、代表理事

字幕大王の本

共訳「計画された！コロナパンデミック」2021/10

監修：大橋眞



翻訳書「本当は何があなたを病気にするのか？」

上下巻 2023/12-24/5

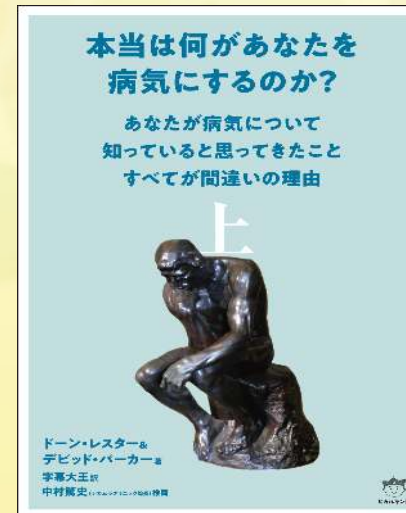
推薦：中村篤史

「ウイルスは存在しない！ガンは存在しない！血は骨で作ってない！」2025/5

共著者：岡田恒良、大橋眞、中村浩三

本当は何があなたを病気にするのか？

- 著者二人はもともとスピリチュアル系。「あなたの信念があなたの病気を作っている」と自著に書こうとしていた。
- その過程でウイルスについて調べてみると、全くの嘘であることを発見。
- 驚いて現代医学を調べてみると、次々に嘘を発見。
- 結局、10年をかけてこの本を書く羽目に。
- 原著は2019/12に発行



2026/5/28新刊

認知戦争・認知支配の全貌



- ジェームズ・コーベット著
- 字幕大王訳
- ヒカルランド刊 2,750円（税込）
- ジェームズへのインタビューあり



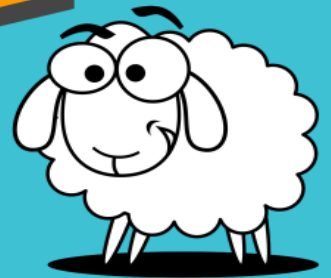
目次

- ホイットニー・ウェブによる序文 — 自分の頭で考えるということ 2
- 著者序文 — 変われば変わるほど、ますます同じだ 6
- 第1章 ルポルタージュ：ニューメディアにおける冒険 25
- 第2章 9/11テロ取引 — 不可思議な巨額投資を追う 37
- 第3章 上昇と下降の政治 — 右でもなく左でもない世界 47
- 第4章 あなたは繁殖に不要!? — 科学の名の下の「優生学」 83
- 第5章 米政府中枢に入り込んだ企業 Ptech — もう一つの9/11テロ 107
- 第6章 マトリックスのステーキに魂を売る — あなたのお金は本物か? 118
- 第7章 グローバリズムを本当に打ち負かす方法 130
- 第8章 バイオの億万長者とGMOビジネスの終末 — 食卓が実験場に 156
- 第9章 服従を楽しむ方法 — 快適さと引き換えに奪われた自由 188
- 第10章 3つのタイプ 198

- 第10章 3つのタイプ 198
- 第11章 モーリス・ストロング — 環境保護の救世主、裏の履歴書 200
- 第12章 「独立」の本当の意味 — 毎日の選択が自由を決める 217
- 第13章 9/11の内部告発者たち — 証明はこうして消される 226
- 第14章 ビルダーバーグに反対すべき理由 — 密室で決まる世界の政治 237
- 第15章 自生的秩序入門 — 放っておけば社会は整う 252
- 第16章 誰が環境保護運動を操っているのか? — 王族、石油王、優生思想 263
- 第17章 グランドチェス盤から逃れる — コマとされている世界 273
- 第18章 さて、話はガラリと変わって — 想定外のどんでん返し 304
- 第19章 未来への手紙 — 自由の灯が消えつつある 311
- 第20章 なぜ私は書くのか — ジョージ・オーウェルに倣って 317
- 【邦訳特別付録】 ジェームズ・コーベットへのインタビュー 330
- 訳者あとがき 356

Google/Appleの監視に **NO!**

ごく普通のスマホにプライバシーは一切ありません。
24時間365日、あらゆる行動が監視されています。
この事実を「IT専門家」なる者たちは誰一人言いません。
ノーシープフォンは日本初の商業ベースのプライバシーフォンです。



no-sheep phone



当法人のサービス内容(一部)

- ・ 監視されないスマートフォン(インストールのみも可)
- ・ 購入者向け説明資料 (監視の徹底排除の方法等)
- ・ Q&A掲示板のアカウント (不明点の問い合わせ)
- ・ (将来的な計画として)購入者向けの説明ビデオ・セミナー

一般社団法人ノーシープ fp.no-sheep.org

スマホは最高のスパイ装置

- 少なくともあなたの場所は完全に把握されている。
- 自宅も職場も知られており、電話番号と結び付けられている。外出すればその場所も。
- 特にiPhoneの場合は
 - 盗聴されている可能性が高い
 - Androidよりも高精度の場所特定
 - 電源OFFにしても無意味
 - 例えば、iPhoneユーザ同士が不倫すれば、間違いなく部屋番号まで特定されている

最悪のストーカー装置：Apple AirTag

- ターゲットのどこかに忍ばせれば、素人がその人の行動を逐一把握できる
- 行く先々に、赤の他人のiPhoneやMacがあれば、正確に位置が報告される。
- 逆に言えば、iPhoneやMacは、勝手に周辺のAirTagの位置をAppleに報告しており、この機能をOFFにはできない。
- つまり、あなたのiPhoneはあなたのものではない！



iPhoneには、あなたの画像を勝手に検索する機能が

- 2,3年前にAppleが、児童ポルノ防止のためと称して「勝手にスキャンする」と発表
- 多くの反対で中止に
- しかし、その機能は既に組み込まれている。

ノーシープフォンとは？

- Google Pixelの中身をGrapheneOSに入れ替えて、Googleとは無関係にしてしまうもの。この状態では一切監視されない（GrapheneOSはオープンソース）
 - 携帯電話会社自体は、常にどこにいるか監視している
 - これも避けたいなら機内モードにする（Wifi通信はできる）
- 基本的には普通のAndroidだが。。。
 - GrapheneOSはGoogle認証を受けていないため、銀行アプリなど認証が必要なものは動作しない。
 - その他、近年は、Googleによる締付けが厳しくなっている。
 - 将来どうなるかは未知数

私が使っていて困ること

- Google認証必要なアプリ
 - 最近、Xのアプリが動かなくなった
 - ChatGPTアプリは最初から動かない
 - ブラウザでは普通に動くのに、なぜこんなことするの？
- 銀行アプリは使ってません
- その他は問題なし
 - Facebook, Messenger, Signal, Thunderbird, Brave, TimeTree, Bitcoin, Mineo, BitWarden, Y!オークション, Y!乗り換え案内, NewPipe, 快活CLUB, Claude, Kindle, Amazon, NextCloud, Autora Store, F-Droid, LINE, Telegram, Rustdesk, Chrome

Linux Mintパソコンとは

- パソコンにオープンソースOSを入れてしまうもの
 - MicrosoftもAppleも無関係
 - Windows用ソフト、Mac用ソフトは一切動かない
- 私は日常的に利用。アプリはほぼ無料
 - Inkscape（貧者のIllustrator）
 - Gimp（貧者のPhotoshop）
 - Kdenlive（貧者の動画作成ソフト）
 - そのほか、Brave、Firefox、Thunderbird、VSCode、Obsidian、Xn View、Audacity、LibreOfficeなどなど
- 有料で使っているもの：SoftMaker Office 2021のみ

今Linuxが熱い！



海外コメンタリー

フランス、250万台のPCをWindowsからLinuxに移行へ--新たなシステム構成を予測してみる

Steven Vaughan-Nichols (Special to ZDNET.com) 翻訳校正: 編集部 2026-04-17 07:30

シェアする 0

ポスト

BI 6

noteで書く



フランスのデジタル省庁間総局（DINUM）は、4月8日、[政府機関のワークステーションでの「Windows」の利用を終了し、「Linux」へ移行することを正式に発表した](#)。この変更は単なる方針表明や研究プロジェクトではない。全ての省庁は、欧州域外の技術への依存を把握し、Linuxと独自開発ツールへの移行計画を2026年の秋までに提出するよう指示された。

なぜか。公共活動・公会計大臣のDavid Amiel氏が強い言葉で述べたように、「国家はもはや依存を認めるだけでは済まされない。脱却しなければならない。[我々は米国のツールへの依存度を下げ、デジタルにおける自らの運命を自らの手で切り開く必要がある](#)」からだ。

Linuxは難しいか？→驚くほど簡単になった

- 昔のLinuxは玄人向け、今のLinuxはWindows並にユーザフレンドリー
- AIに何でも聞ける
 - これはどう使うの？
 - これこれをやりたいが、どんなソフトがある？
 - 「これは無理だろう、ないだろう」と思っていたが、一応AIに聞いてみると予想外の答えが。やりたいことが完璧にできた。
 - これこれのプログラムを作ってくれない？（プログラマ向け）
 - ただし、いつも通り、適当な答えを返してくることも。。。

翻訳作業はVSCodeで

File Edit Selection View Go Run Terminal Help

reportage

Update

EXPLORER

REPORTAGE

130-How to Enjoy You...
140-The Three Types...
150-The Strange Life...
160-The Real Meanin...
170-The 9-11 Whistle...
180-Why We Must Op...
190-A Brief Introducti...
200-Who Controls th...
210-Escaping The Gra...
220-And Now For So...
230-A Letter to the F...
240-Why I Write.md
260-About-The-Autho...
265-インタビュー.md
267-訳者あとがき.md
270-裏表紙.md
check_reference
extract-note
index.md
index.txt M
notes.txt U
notes2.txt U
original-errata.md
questions.md
reference
refering
reverse.txt U
translators-note.md
words.txt M
やること.md
画像集.md
用語集.md

OUTLINE

abc # 第15章 自生的...
abc ## 支配よりも大...
abc ## 管理者がい...
abc ## 信号を撤去...
abc ## 老子の教え...
abc ## 注釈

190-A Brief Introduction to Spontaneous Order.md
265-インタビュー.md
110-How to Ret

Preview 190-A Brief Introduction to Spontaneous Order.md

45 # 第15章 自生的秩序入門—放っておけば社会は整う↓
50 ## 支配よりも大切なもの↓
Order” or “order out of chaos,” we’ re ultimately talking about t
same thing: an “order” based on a hierarchical view of society, in
which the lawmakers and their corporate cronies seek to regulate,
proscribe, manipulate, inhibit, and control the actions of the
masses. ↓
68 -->↓
69 しかし、「法と秩序」について議論するにせよ、「<!--{NWO}-->新世界秩序」や「混沌からの秩序」について議論するにせよ、究極的には同じことを話しているのだ。それは、社会の階層的見方に基づく「秩序」であり、立法者と企業のお仲間たちが大衆の行動を規制し、禁止し、操作し、抑制し、統制しようとするものだ。↓
70 <!--↓
71 So, what if I were to tell you that there’ s an entirely different concept of societal order—one that not only rejects hierarchical “order” but actually refutes the concept of top-down control? Well, there is, and it’ s called “spontaneous order.” ↓
72 -->↓
73 では、私がこう言ったらどうだろう？ 社会秩序についての全く異なる概念が存在すると。つまり、階層的な「秩序」の拒否のみならず、トップダウン的統制という概念自体を拒否するものがあるとしたら？ 実は、そのような概念は存在する。「<!--{自生的秩序}-->自生的秩序 (spontaneous order)」と呼ばれるものだ。↓
74 <!--↓
75 The hierarchical model of control orders society in a pyramidal structure where rules and regulations dictated by the “elite” at the top are forced on the masses at the bottom by a bureaucratic class in the middle. Spontaneous order, on the other hand, posits that society best functions as a decentralized network of free individuals participating in voluntary interactions. ↓
76 -->↓
77 階層的統制モデルは、社会をピラミッド構造に秩序づけ、トップの「エリート」が定めた規則や規制を、中間の官僚階級が下層の民衆に押し付ける。その一方、<!--{自生的秩序}-->自生的秩序においては、社会は自発的交流に参加する自由な個人による分散型ネットワークとして最もよく機能すると主張される。↓
78 <!--↓
79 The principle of spontaneous order has arguably been around since the 4th century BC, when Chinese philosopher Zhuang Zhou conceived

しかし、「法と秩序」について議論するにせよ、「新世界秩序」や「混沌からの秩序」について議論するにせよ、究極的には同じことを話しているのだ。それは、社会の階層的見方に基づく「秩序」であり、立法者と企業のお仲間たちが大衆の行動を規制し、禁止し、操作し、抑制し、統制しようとするものだ。

では、私がこう言ったらどうだろう？ 社会秩序についての全く異なる概念が存在すると。つまり、階層的な「秩序」の拒否のみならず、トップダウン的統制という概念自体を拒否するものがあるとしたら？ 実は、そのような概念は存在する。「自生的秩序 (spontaneous order)」と呼ばれるものだ。

階層的統制モデルは、社会をピラミッド構造に秩序づけ、トップの「エリート」が定めた規則や規制を、中間の官僚階級が下層の民衆に押し付ける。その一方、自生的秩序においては、社会は自発的交流に参加する自由な個人による分散型ネットワークとして最もよく機能すると主張される。

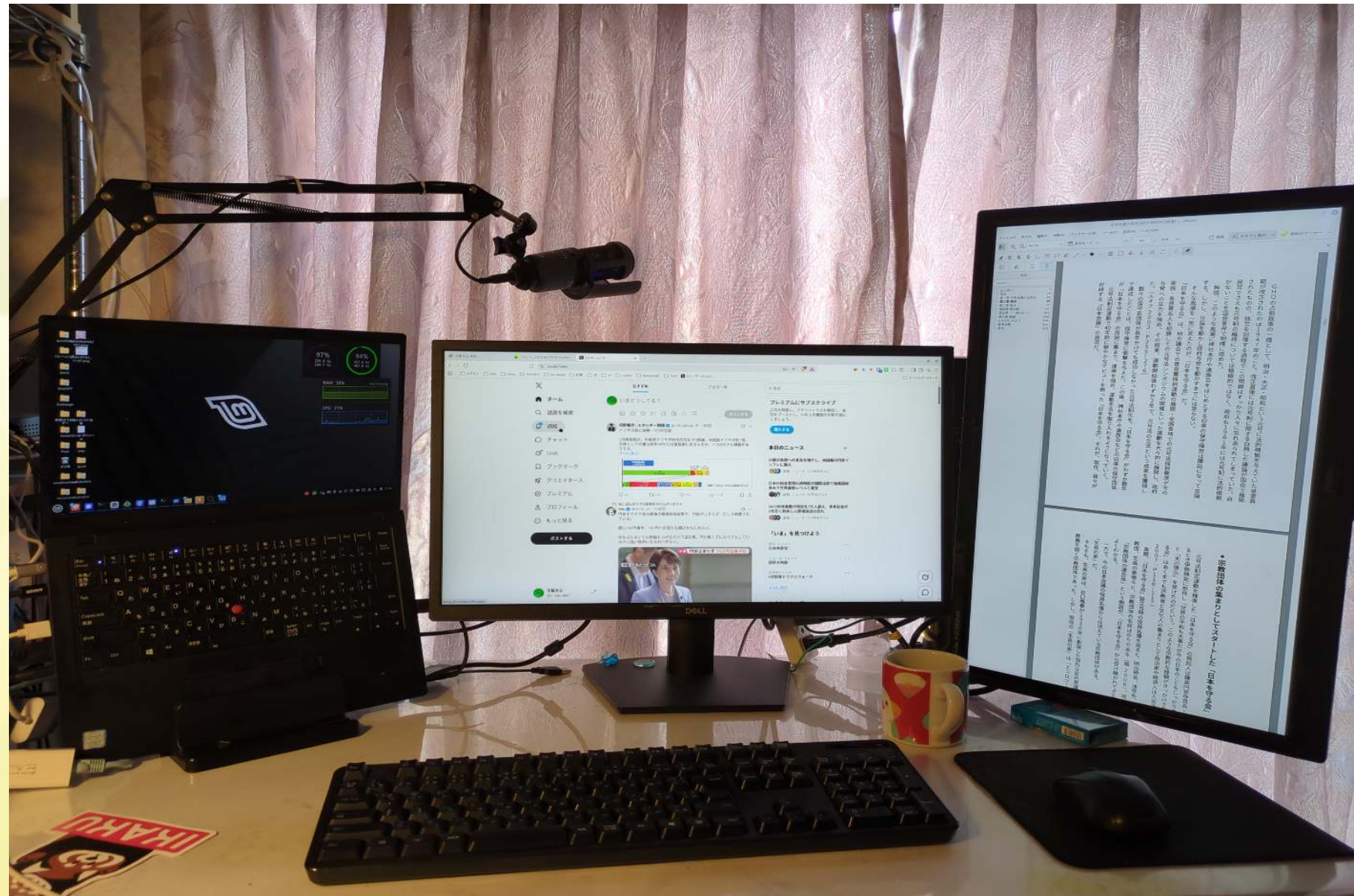
自生的秩序の原理は、ほぼ間違いなく紀元前4世紀から存在していた。当時、中国の哲学者荘子が「物事を放っておくと、自発的に秩序が生まれる」という考えを思いついた[5]。さらに、18世紀にはスコットランドの啓蒙知識人[6]が、19世紀にはフレデリック・バステア[7]などの思想家がさらに発展させた。しかし、20世紀になって初めて、オーストリア生まれの哲学者で経済学者のF・A・ハイエクが自生的秩序の理論を命名、体系化、一般化した[ハイエクの邦訳書として『法と立法と自由—ルールと秩序』、解説書として嶋津格著『自生的秩序』、森田雅憲『ハイエクの社会理論: 自生的秩序論の構造』がある]。ハイエクは1966年の論文「自由主義的社会秩序の原理」の中で、自生的秩序についてこう述べている。

自由主義（リベラリズム）の中心的概念は次のようなものだ。普遍的な「正義ある行動のルール」が厳格に守られて、各個人の明確に認められた私的領域（私有権・自由）が保護されている限りにおいては、人間の活動はどんな計画的な制度よりもはるかに複雑な自生的秩序を自然に形成していく、という考え方である[8] [ここでいう「リベラル」と現代米国で使われる「リベラル」とは異なる概念であることに注意]。

ハイエクの見解を普通の英語に置き換えると、恥ずかしくなるほど単純であると同時に、驚くほど深遠だ。自らの利益を守るために行動する個人の自由な選択から生まれる社会秩序は、合理的に秩序づけられた中央集権のシステムよりも、常に安全で複雑であるという

Ln 1, Col 1 Spaces: 4 UTF-8 LF () Markdown

自宅ではノートパソコンにモニタ 2 台



一般社団法人ノーシープのサービス

- ノーシープフォン(GrapheneOS)設定
 - Google Pixel本体料金（持ち込み可）＋初回設定料20,000円
 - ただし、できるだけ新しい方が長く使える。Pixel 6aよりPixel 7aなど。
 - ※今後のGoogleによる締め付けが予想されます。
- Linux Mint設定
 - Windowsパソコン本体料金（持ち込み可）＋初回設定料30,000円
 - どのメーカーでも構わないが、メーカーによってLinuxフレンドリーか否かが異なる。1:Lenovo、2:Dell、3:HP。

私の趣味

本日お話しすることの概要



- 憲法の「基本的人権」とは何か？
- 自然権とは何か？
- 社会契約論
- 民主主義では人権（自然権）は守れない
- アナーキストによる「異議あり！」
- 日本人の思想の「コペルニクスの転回」と未だに理解できない人たち
- 「彼ら」のテーマは「いかにして自ら人権を捨てさせるか？」
- 歴史的に証明済み：自主的人権返上方法
- 戦時中の日本との共通点
- 「支配者」に好き勝手させるためのソーシャルエンジニアの戦略
- ニッポンのディープステート(DS)
- 宗教的信念の醸成：個人より「神」を上置く
- 支配装置としての宗教
- 権威主義的人格～支配されることを好み、自ら奴隷になる
- 正義ほど恐ろしいものはない
- 歴史修正主義の欺瞞
- 愛国ビジネス
- 平気でうそをつく人たち
- 宗教右派暗躍の歴史
- ナショナリズムからグローバリズムへの移行は必然
- 国家幻想から人間中心社会への転換
- 『認知戦争・認知支配の全貌 第19章 未来への手紙』より

憲法の「基本的人権」とは何か？



人々が勝ち取った、侵すことのできない永久の権利

第十章 最高法規

97条

この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、
人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、
これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、
現在及び将来の国民に対し、
侵すことのできない永久の権利として
信託されたものである。

戦争の悲惨な経験と、
人々のたゆまぬ努力があったからこそ、
今、私たちはこの権利を生きることができる。

人権は、人々の手によって未来へつながれていく。

その想いを、今、次の世代へ。

憲法の用語「基本的人権」

- 自然権＋社会権などと考えてよい（共に後述）
- 97条の記述
 - 人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果（であり）
 - 過去幾多の試練に堪へ（てきた）
 - 侵すことのできない永久の権利

2つの種類をまとめて「基本的人権」と呼びます

自然権思想（自由権の源流）

人は国家が存在する以前から、生命・自由・財産などの権利を持つという考え方（自然権は国家より先に存在する）

ロックが説いた自然権の代表例

生命権



生きる権利

自由権



心身の自由を持つ権利

財産権



財産を持ち、その利用・処分をする権利

この自然権思想が、近代憲法における自由権の基礎となりました。
(例：表現の自由・信教の自由・身体の自由・居住移転の自由・職業選択の自由など)

社会権・参政権・受益権

近代以降、特に20世紀に発展した権利群
(人間らしい生活や民主主義を実現するための権利)

社会権 (生存権など)



人間らしい生活を送るための権利

参政権



政治に参加するための権利

受益権

(裁判を受ける権利など)



権利を守るために
制度を利用する権利
(裁判を受ける権利など)

労働基本権



働く人が団結し、
交渉・活動する
ための権利

近代以降に発展した権利

これらすべてをまとめて「基本的人権」と呼びます

日本国憲法
第97条

侵すことのできない
永久の権利

97条は、基本的人権の根底にある**自然権思想**を、
「**憲法上で宣言した条文**」です。

人類が長い歴史の中で自由を求めてきたことをふまえ、
国家権力も決してこれを侵してはならないと定めています。

つまり、97条は「**人間の尊厳と権利の不可侵性**」を宣言した**条文**なのです。



憲法は国家が
国民に与えたものではなく、
国民がもともと持つ権利を
国家が尊重・保障することを
約束したものです。

人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果である

王の専制

奴隷制度

宗教弾圧

独裁政治

身分制度

人権

自由
平等
尊厳

表現の自由
信教の自由
法の下での平等

など



これらの権利は過去幾多の試練に堪えた



革命



戦争



弾圧



独裁

何度も侵害されながらも、
それでも人々は立ち上がり、やはり必要だと確認し続けてきた



人権は歴史の試練を経てもなお
生き残った原理である

侵すことのできない永久の権利である

人権は
国家や多数決
より上位にある

人権

生まれながらに持つ
かけがえのない権利

国王

議会

内閣

多数決

多数派の意見が
すべてだ

反対は
許さない

人権は政府が
与えるものではないので、
取り上げることもできない

憲法の人権条項は、**巨大な事故の後**に作られた**安全装置**である。

安全装置だけを見ていると、意味が分からない



なぜ付いているのかを理解するには、過去に何が起きたのかを知らなければならない



💡 憲法の人権条項は、**未来の平和**と、すべての人の**尊厳**を守るための、**大切な安全装置**なのです。

「支配層」は、この条文が大嫌い！

- 2012年の自民党改憲草案では、97条をまるごと削除することになっていた。
- 連中の本当の狙いは、9条改正や緊急事態条項（国会機能維持条項）追加ではなく、我々の人権（自然権）の削除。騙されてはいけない！
 - そもそも、徴兵制や緊急事態条項をやろうとした場合、97条とは衝突してしまう。そのため、将来的には、必ずこの条文が削除される。
 - 最終目的は国民の臣民化（奴隷化）。権利は国が与えることにする。

人権にとって、 国や憲法は関係ない。 絶対不可侵である

人権
絶対不可侵

憲法

多数派の意見

国家の都合

権力の乱用

生命

自由

平等

尊厳

思想・信条の自由

表現の自由

幸福追求権



頑張ってはいるが、足りない！

- 97条こそ日本国憲法の核心なのに、その重要性を説いていない（もちろん私は政党に何の期待もしていません）



わかりやすいが、足りない！

- はんどう大樹
「檻の中のライオン」
- 近代立憲主義を前提として解説
その原理については説明なし
- 正直なところ、弁護士という立場
での限界を感じる。



ライオン＝権力、檻＝憲法で語る、
憲法の入門書

かもがわ出版

明らかな誤りもある

私たちが人間らしく生きるために、私たちを取り仕切って政治をする人
が必要です。だから、政府を作って政治を任せましょう。でも、単に一任
するのでは、政府が本当に私たちの権利を守ってくれるか心配です。

そこで、ちゃんと私たちの権利を守るように政治をする、と政府に約束
してもらいます(社会契約)。もし、約束に反して私たちの権利を侵したら、
私たちは政府に抵抗する権利があります(抵抗権、▶P76)。

以上のような考え方を、社会契約説といいます。「自然権」の続きの話で、
ロックやルソーが唱えたものです。

『檻の中のライオン』
12ページ

- 社会契約論とは、まず初めに自然権を持つ人同士の合意（相互契約）があり、国家とは契約の結果でしかない。
- ただし、ロックなどの思想では、政府（統治機構）が設立された後は、人々は「その政府の権力に従う」ことに同意する。

「9条議論・緊急事態条項（国会機能維持条項）議論は 本質から目をそらすもの」でさえある

- とにかく改憲にこぎつける
- おそらくは、改憲発議を現在2/3から過半数に修正
- 次々に改憲していき、最終的には目論見通りに
- 何十年かかってもこれを絶対に行う（彼らの執拗さは想像を絶する）



自然権とは何か？



自然権とは一体何でしょうか？

日本国憲法では、特にジョン・ロックの思想の影響が強いと言われますが、簡単に言えば、「**人が生まれ持って持つ権利**（人間として生まれただけで、これらの権利がある）」です。

ジョン・ロックは3つの権利を示しました

ジョン・ロック
(1632-1704)



イギリスの思想家。
「人は生まれながらにして、**自由・平等であり、自然に3つの権利を持っている**」と考えました。

① 生命権

人は自分の**生命**を守る権利を持つ。



つまり、勝手に殺されない、不当に傷つけられないという権利。

② 自由権

人は他人の**奴隷**ではない。



つまり、自分の意思で行動できる、国家や他人に恣意的に**支配**されないという権利。

③ 財産権

人が自分の**労働**を加えたものは自分の所有物になる。



例えば、畑を耕した、果物を収穫した、家を建てたなら、その**成果は自分の財産**になるという考え。

財産には、土地や物だけでなく、**自分の身体、自分の労働**も含まれる。

まとめ

自然権とは、
人が**生まれたときから持っている、譲ることのできない基本的な権利**です。



ジョン・ロックの考え

1 人々にはそもそも自然権がある

自然権（生まれながらに持つ権利）

生命



自由



財産



これらは人が生まれながらに持つ権利であり、
誰からも奪われるものではない

2 これは国家が与えるものではない

いいえ。
権利はもともと
私たちにあるものです

権利を
与えよう

権利

自然権は国家から与えられるものではなく、
人々が生まれながらに持つものである

3 国家の役割は、人々の自然権を守ることである

国家・政府

自然権を
守る

国家の役割

- ✓ 生命を守る
- ✓ 自由を守る
- ✓ 財産を守る

国家（政府）は、人々の自然権（生命・自由・財産）を
守るために存在する

4 政府が人々の権利を侵害する場合、 それを打倒する権利がある

増税・弾圧・財産の没収
言論の自由の禁止 など

権利の
侵害！

打倒する権利がある！

政府が自然権を侵害し、人々を守らなくなったなら、
人々にはその政府を打倒する権利がある

国家の存在目的はあくまでも人権を守ること

国家そのものが目的ではない

本来あるべき姿

人権を守るために国家がある



国家は人権を守るための「手段」

目的がすり替わった姿

国家そのものが目的になってしまう



国家が目的になると、人権は後回しになる

国家はそれ自体のために存在するのではなく、
人間の尊厳と権利＝人権を守るために存在する。

この後でも問い続ける問題

「国家が最高価値である」とする人々の言う 「国家」とは一体何のこと？

「国家」の定義は？

一般に「国家」とは、領土・国民・主権を持ち、政治を行う組織体のこと。



国民
その共同体に属する人々



領土
国が支配する地理的範囲



主権（政府）
他国から独立し、統治する権限

国家とは、国民のための「仕組み」であって、特定の個人や集団ではない。

国家には口がない、指示できない。



- ❌ 自分で考えて決めることはできない
- ❌ 命令することもできない
- ❌ 意思表示することもできない

国家それ自体は、意思も感情も持たない
「制度・仕組み」にすぎない。

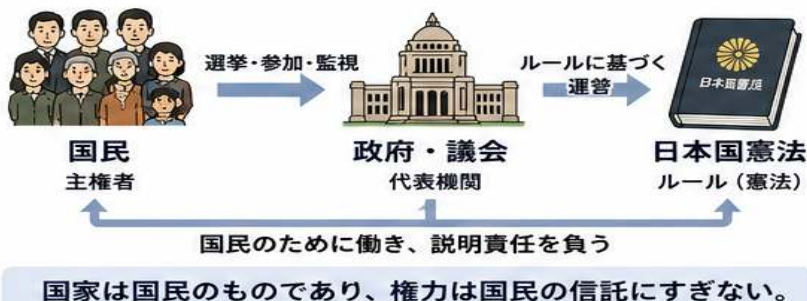
もしかして…:

「国家」ではなく、
「国家を牛耳ってる人」のことでは？



「国家のため」と言いながら、
実際は特定の人や集団が権力を正当化し、
自分たちの利益や支配を維持しているのでは？

本来の関係（民主主義の考え方）



こんなときは要注意！

- ⚠️ 「国家のため」なら何をしていても正しいとする
- ⚠️ 批判すると「非国民」「敵」と決めつける
- ⚠️ 権力を持つ人の都合で「国益」を定義する



その「国家」は本当に国民のもの？
それとも、特定の人たちの
都合のいい「道具」では？

忘れてはいけないこと

国家は国民のための仕組み。
国民の上に君臨するものではない。

「国家」を語るなら、
まず「誰のための国家なのか？」
を問い直そう。



「国家が最高価値」という言葉に惑わされず、その「国家」の正体を見極めることが大切です。

自然権思想の根拠は？

- 「人間はこれらの権利を初めから持つ」は証明できるものではない。
- もともとは、神学から生まれた。
- 近代立憲主義においては、「人間の尊厳を守るためには、人権を国家より上位に置く」という前提を採用。
- 法学的には、「規範」「価値原理」として理解される。
 - 人としてやってはいけないことと、その根拠となる価値

自然権は科学的に証明された事実ではない。しかし、人間の尊厳と自由を守り、国家権力を制限するための最も重要な規範的前提として採用されている。

米独立宣言（1776）超意識

- 我々は、次を当然の真理と考える。人は平等に生まれ、創造主から与えられた権利を持つ。生命を守る権利、自由に生きる権利、自身の幸福を追求する権利、これらの侵すことのできない権利である。政府とは、これらの権利を守るために作られるものである。政府が正当な権力を持つのは、統治される人々の同意に基づく場合に限られる。
- したがって、もし政府が本来の目的を忘れ、人々の権利を侵害するようになれば、人々にはその政府を改める権利がある。それでも改善されないなら、その政府を廃止し、新たな政府を設ける権利がある。

仏人権宣言（1789） 超意識

- 人間は生まれながらに自由であり、権利において平等である。社会的な違いが認められるとしても、それは皆の利益のためでなければならない。
- 国家や政治組織の目的は、人間が本来持つ権利を守ることである。その権利とは、自由、財産、安全、圧政への抵抗である。
- すべての政治権力の源は国民である。国王や貴族が生まれつき支配する権利を持つわけではない。
- 自由とは、他人を害さない限り、自分の望むことができることである。自分の自由は、他人の同じ自由を侵さない範囲で認められる。

自然権は近代国家の基本事項

- ジョン・ロック（1632-1704）
- 米独立宣言（1776）：「すべての人は平等に造られ、生命・自由・幸福追求の権利を持つ」
- 仏人権宣言（1789）：「人は生まれながらにして自由で平等な権利を有する」
- 日本国憲法（1947）
- 世界人権宣言(1948)：すべての人間が生まれながらに持つ基本的人権と自由を、国際社会が初めて包括的に宣言
- 国際人権規約(1966)：世界人権宣言の理念を法的に拘束力ある条約として具体化

社会契約論



社会契約論

- 自然権思想：人には国家以前から権利がある
- 社会契約論：国家は人々の合意によって成立する
 - 自然権はあるが国家がないとすると、
 - 安全に暮らせない、権利を守れない
 - だから、人々が互いに契約して国家を作る

自然状態

社会契約

国家



人は生まれながらに
自然権を持つ

守れない



争い・不安定



人々が契約で国家をつくる

目的



自然権を守るための
手段 (必要悪)



権力は危険



人権の保障

憲法・法の支配



権力を制限する



国家は目的ではなく、自然権を守るための手段。
必要だからつくり、危険だから縛る。

実際の「国」の成り立ちは違う

- 事実として、日本国は日本国憲法以前からある。
- しかし、現在の日本国が正当な権力を持つためには、人々の合意によって作られたとの想定、正当性が必要である。社会契約論の原則に従っていなければ、日本国は国家として認められない。
- 皆さんが完全に誤解している・誤解させられている、とても重要なポイント！

日本国は日本国憲法以前からある、しかし、国家の正当性には「人々の合意」が必要

社会契約論の原則に則っていなければ、国家としての正当性は認められない

1. 歴史的事実

日本国は、日本国憲法以前から存在した。
明治憲法下でも日本国は存在していた。



国家の「存在」と「正当性」は別問題



たとえ歴史的に存在していても、
正当な権力 = 国民の合意に基づくこと
が必要ではないか？

2. 社会契約論の原則 (国家の正当性の根拠)

国家の権力は、人々の合意によって正当化される。
国家は国民の権利を守るために存在する。



社会契約論に則っていなければ、
国家権力の正当性は認められない

3. 現在の日本国は、社会契約論の原則に基づいている

日本国憲法は、国民の合意と人権保障を基本に国家の正当性を定めている。



前文 戦争の反省と平和、
国民の幸せを願う。



第1条 天皇の地位は、
主権の存する
日本国民の総意に基づく。



第11条 国民の基本的人権の尊重
(侵すことのできない権利)



第97条 基本的人権は、
侵すことのできない
永久の権利。



第99条 天皇・公務員は
憲法を尊重し、擁護する
義務を負う。



現在の日本国は、
「国民の合意によって正当性を持つ国家」という
建前 (規範) の上に成り立っている。

4. 注意すべきポイント：二つの側面の違い

国際法上の国家である条件

- ・ 領域 (国土)
- ・ 国民
- ・ 政府 (統治権)
- ・ 他国との関係



≠

これらを満たせば、たとえ独裁国家でも
国家として承認され得る。

政治哲学上の正当な国家である条件

- ・ 国民の同意があること
- ・ 人権が保障されていること
- ・ 権力が憲法によって制限されること



これらを欠けば、権力の正当性を
失うと考える。

より厳密には…

現在の日本国は、
日本国憲法によって**社会契約論・近代立憲主義の原則**に基づき、
国家権力の正当性を説明している。



社会契約論における国家

- 国家は自然に存在するものではない
 - いくら「国家です！」と言い張ってもだめ
- 国家は人権を守るために存在する
- 権力は国民から生まれる
- 国家が契約を破れば正統性を失う
- これが近代立憲主義の出発点

ただし、国家には二つの異なる意味がある

- 事実として存在する国家（政治学や国際法上の国家）
 - 領土があり、軍隊や警察があり、税金を徴収し、国際社会から国家として扱われている
- 社会契約論における国家（正当な国家）
 - 国民の自然権を守るという契約を破った政府・国家権力は、その正当性を失う（ロック）。
 - その場合、物理的には存在していても、正当な統治権は失われている。

独裁国家は？

- 独裁国家であっても、国際法上は国家として存在し得る。しかし、社会契約論・近代立憲主義の観点からは、人民の同意や人権保障を欠く国家権力は正当性がない。
- 例えば、中国は「正当な国家」とは言えない。もし、中国を蔑みたいのであれば、この点を突くべきだが、それはされない。なぜなら、中国敵視・中国人蔑視思想の者は、日本を中国のような独裁国家にしたいから（私の見方）。

こういった議論が全くされないのはなぜか？

民主主義では人権（自然権）は守れない

民主主義は暴走する



人間には生まれながらの権利がある



日本国憲法とは

国家はその権利を守るために存在する

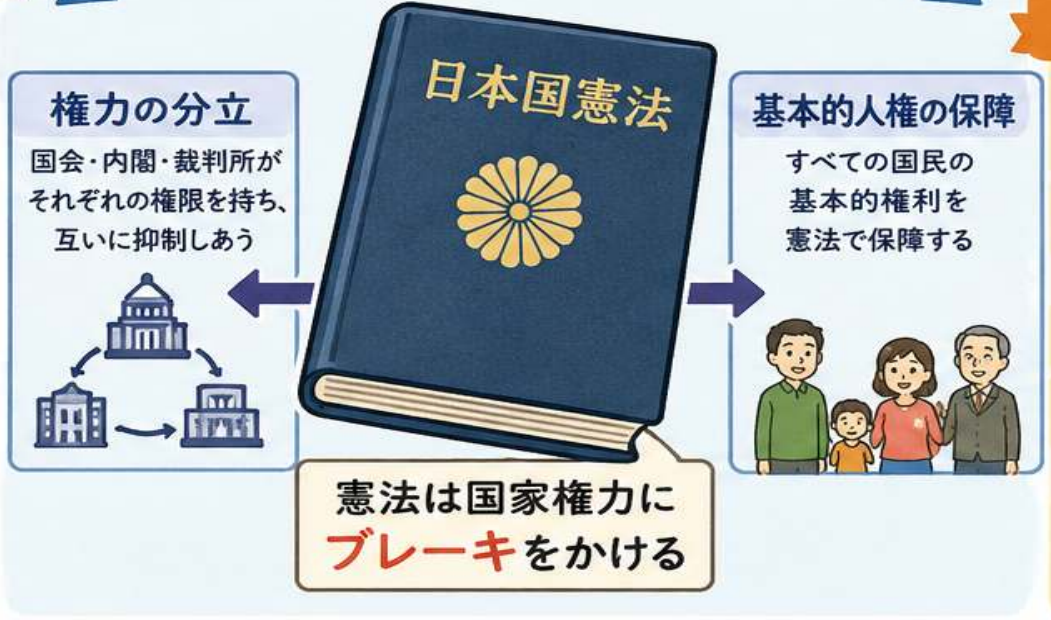
「人間には生まれながらの権利があり、国家はその権利を守るために存在する。しかし国家は暴走する可能性があるため、憲法によって**国家権力を制限**する」という近代立憲主義の考え方を具体化したものである。



しかし国家は暴走する可能性がある



だからこそ、憲法によって国家権力を制限する



国家のために国民がいるのではなく、国民のために国家があることを宣言している



最上位



人権(自然権)

- すべての人が生まれながらに持つ権利
- 侵すことのできない権利



人間らしく生きる権利(自由・平等・生命・財産など)

人権(自然権)は最上位にある。

日本国憲法でもこれがうたわれている。
つまり、国や憲法の前に
個人の人権がある。



憲法

- 人権を保障するために
国家の権力を制限する
最高法規



国民の基本的人権の尊重



国家は、それ自体が目的なのではない。

人権を現実には保障するための必要悪、
あるいは実践的な制度として
導入されたにすぎない。



国家(政府)

- 人権を保障し、秩序を
維持するための制度
(権力は国民からの委託)



国家の存在理由は、
人権の保障にある。

国家は、その目的を超えて
権力を行使してはならない。

国民(個人)

- 国家の主権者
- すべての権利の主体



近代立憲主義

- 人間の自然権を守るために国家は存在する。しかし国家は暴走する危険性があるため、憲法で国家権力を制限する。
- 当然だが、国民が主権者なので多数決。



多数決は絶対ではない

- そもそも国家の目的は皆の人権を守ることなのだから、人権を剥奪するような決議は不可。
 - 奴隷制度を復活
 - 特定宗教を禁止
 - 言論を封殺
- 多数決の専制
 - 51%が賛成しても、49%が反対した場合、後者に強制する権利があるのか？

自然権思想の立場からは、 どれほど**多数が賛成**しようが、

奴隷制度を復活させる

賛成！

奴隷制度
復活を
提案します！

× 認められない！

特定宗教を禁止する

賛成！

特定の宗教を
禁止します！

× 認められない！

言論を封殺する

賛成！

批判する
意見は
禁止します！

批判意見

× 認められない！

こんな議決をしようとするれば、
現代日本では
憲法違反となりますが、
偶然ではありません。



憲法違反！

基本的人権は
多数決でも
侵害できない

自然権思想とは

人間には生まれながらにして、
生命・自由・幸福追求などの
権利(**自然権**)があるとする考え方。
国家や多数決よりも、これらの
権利が優先されると考えます。

日本国憲法は…

そもそも日本国憲法自体が
近代立憲主義に基づいて
作成されたため、
そのような決定は
認められないわけです。

基本的人権は
国民すべての
もの。
**多数決で
侵害できない！**

多数決は大切ですが、それだけでは人権を守れません。
人間の尊厳と権利を守るために、憲法(立憲主義)があるのです。

例えば、**51%**が**賛成**した場合、**49%**が**反対**しても、その49%の意見を完全に無視できます。

賛成 **51%**

投票

反対 **49%**

賛成!

反対...

可決

その決定で**49%**が**不利益**を被るとすれば、彼らに**強制**できてしまうわけです。

51%の決定が強制される

決定事項

強制力あり

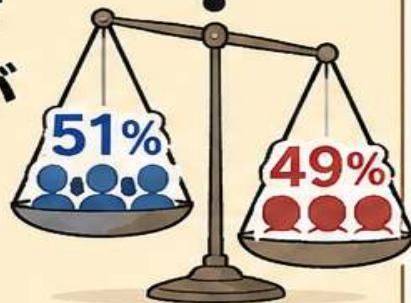
不利益を被る49%

これを「**多数派の専制**」と呼ぶそうです。

?

なぜ**51%**には**49%**を**支配する権利**があるのか?

?



この問いに
民主主義だけでは
十分に答えられません。

「多数派の専制」の解決策は見出されていない

- 緩和策（被害を最小限にする仕組み）
 - 憲法による人権保障
 - 違憲審査
 - 権力分立
 - 二院制
 - 地方自治
- 近代立憲主義：民主主義（多数決）と、立憲主義（多数決でも侵せない権利）を組み合わせることによって、多数派の専制をできるだけ防ごうとする思想

妥協の産物：近代立憲主義＋民主主義（国民主権）

理想と現実のギャップを埋め、人権を守るための現実的な仕組み

1. 理想（理念）

社会契約論の考え方

国家の正当性は、
人々の同意から生まれる。
人権は国家より先に存在する。



国家は人権を守るための
道具にすぎない

2. 現実

多くの国家は、
戦争・征服・王朝・武力など、
人々の自由な合意では
生まれていない。



今ある国家を、
すべて壊して作り直すことは
現実的ではない

3. 妥協の解決策 （制度によるコントロール）

国家は維持する。
しかし、権力を自由にさせない。



憲法で権力を縛る
（近代立憲主義）



主権者を国民とする
（民主主義・国民主権）



基本的人権を保障する
（人権の尊重）

国家の成立過程は問わない。
しかし、これからは人権を守る
国家として振る舞え。

4. 目指す姿

国民が主権を持ち、
人権が守られる社会へ



国家権力は国民のためにあり、
人権を侵してはならない



近代立憲主義＋民主主義は、理念をあきらめた**妥協**ではなく、現実を**平和的に改革するための知恵**。

アナーキストによる「異議あり！」

アナーキストは徹底的に自然権を守る
ライサンダー・スプーナー、ラーケン・ローズなど



国家を作った瞬間に自然権の侵害が始まる

自然状態



国家を作る



その瞬間から...

自然権の侵害が始まる



自然権が保障されている状態

- ✓ 生命の自由
- ✓ 身体の自由
- ✓ 財産の自由
- ✓ 表現の自由
- ✓ 信教の自由 など

国家の誕生（権力の集中）

法律や制度を通じて、
国家が人々を支配する仕組みが生まれる

自然権が侵害される状態

- ✗ 税金の強制（財産権の侵害）
- ✗ 法律による行動の制限
- ✗ 表現の自由の制限
- ✗ 移動の自由の制限
- ✗ 営業の自由の制限 など



国家という権力が生まれた瞬間から、
人々の自然権は制度的に**侵害される**仕組みが始まる

アナーキストの言い分

- 国家には、人を支配する権利そのものが存在しない！
 - 個人にない権利は、集団にも生まれない
 - 民主主義は権威の発生源ではない
 - 「国家は個人の代理人」は成立しない
 - そもそも契約なんかしてない！

1人には「ない権利」

税金を
徴収する権利



あなた



恐喝

あなたを
逮捕する権利



監禁

あなたの家を
差し押さえる権利

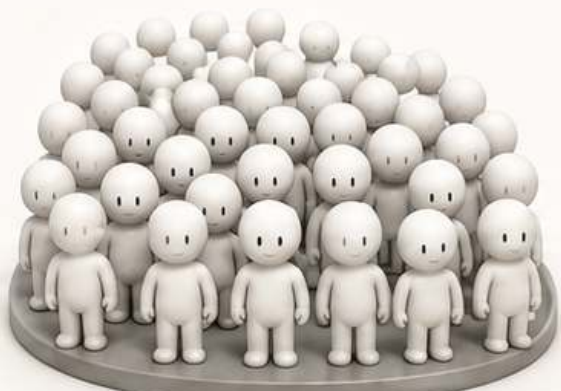


強盗



これらをやれば、
恐喝・監禁・強盗になる

100万人集まって投票しても…



100万人の投票



100万人分の「ない権利」



100万人分の「ない権利」を
足しても…

税金を徴収する権利



あなたを逮捕する権利



あなたの家を差し押さえる権利

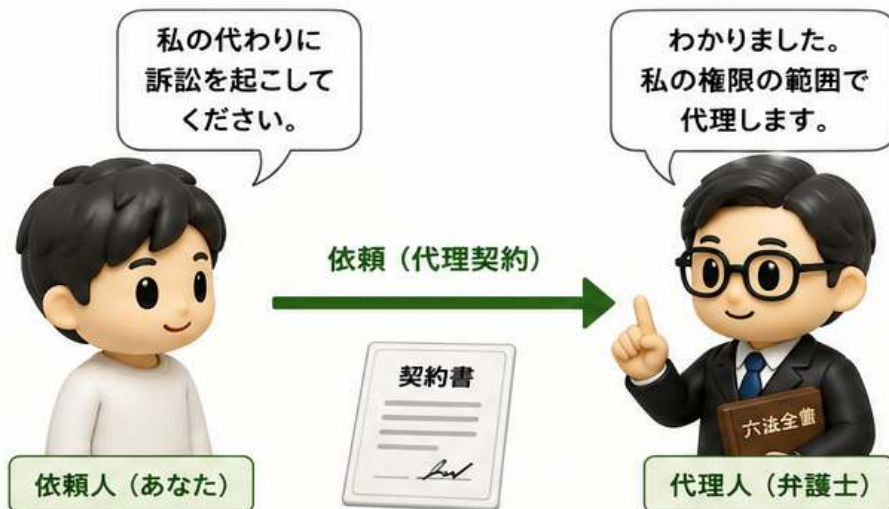


「ある権利」には
ならない!



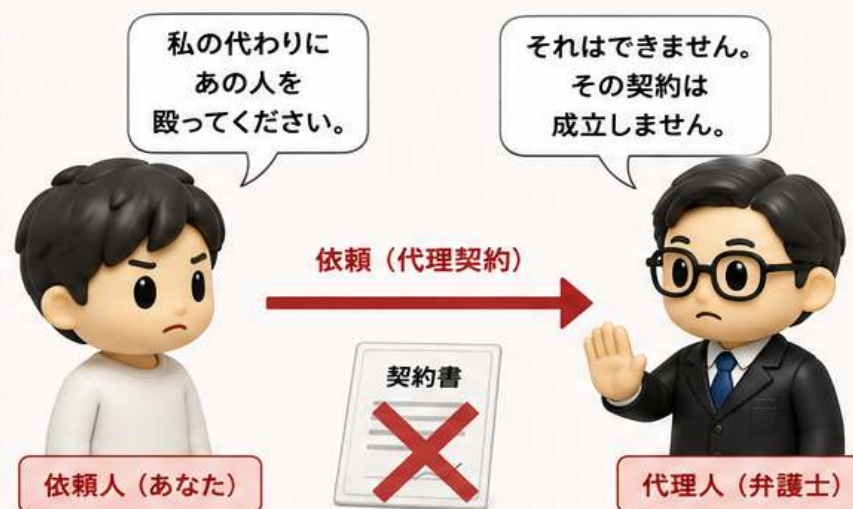
権利
(正当なもの)

✔ 弁護士に対して「私の代わりに**してください。」と依頼できます。



あなたが持つ権利の範囲内の代理は成立する。

✖ 他人を殴る権利は持っていないので、「私の代わりに殴ってくれ」という代理契約は成立しません。

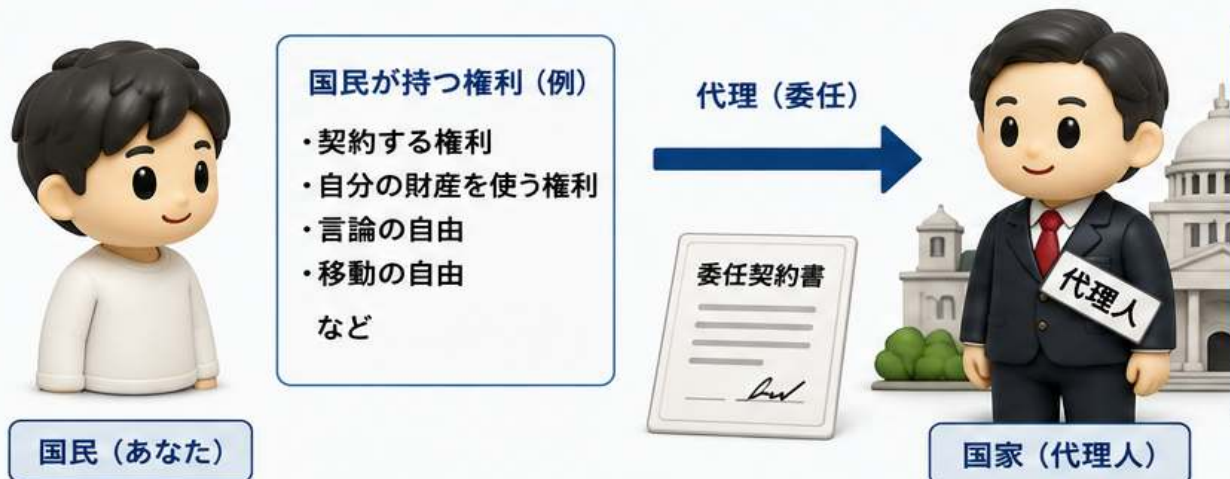


あなたが持たない権利を使う代理契約は成立しない。

代理人は、依頼人以上の権限を持ってないのです。



もし国家が国民の代理人であるなら、国民が持たない権利は行使できません。



国家が行使できる権利

国民から委任された権利の範囲内のみ行使できる。

(例)

- ・契約を結ぶ
- ・公共サービスを提供するなど

国民が持たない権利は、国家も行使できません。

- ✖ 他人を殴る
- ✖ 財産を不当に奪う
- ✖ 言論を弾圧する
- ✖ 勝手に税金を取る など

したがって、国家の権限は国民の権利の範囲内に限定されるべきです。

契約なんかしてない！

マンション管理組合の場合



✓ 入居時に
規約へ同意する

入居する前に、管理規約の内容を
確認し、同意して契約します。



管理規約

- ・共用部分のルール
- ・管理費・修繕積立金
- ・使用細則 など

同意します

署名： _____

国家の場合



✗ 生まれた時点で
加入扱い

自分の意思と関係なく、
生まれた瞬間から
国家の構成員（国民）
として扱われます。



国家の構成員
（国民）として扱われる

契約なら当然、解約できます。

例えば、警備会社が気に入らなければ、
別の会社へ乗り換えます。



A社と契約



別の会社 (B社) へ乗り換え



ところが国家は、勝手に解約できません。

国家はサービスではなく、権力で人を縛ります。



この国のやり方は
気に入らない。
やめたい...

やめたい (解約したい)



解約はできない

国家からは逃れられない



税金を
強制的に取られる



ルールを破れば
罰せられる



暴力 (軍事・警察) で
従わせられる



国を出るのも
制限される

契約ではなく支配。



支配

そもそも、政府はどのようにして成立したのか？
その（恣意的に定められた）国境の内側の土地に対するその権威はどこから生じたのか？ 政府はいかなる権利によって「その」人々を支配しうるのか、また何によって「その」人々はその法律に従わねばならないのか？ もちろん、明らかな真実としては、誰も支配者にはなれないことだ。一人の君主であれ、一握りの金権家であれ、軍事政権も議会でも、隣人でさえも、他の人間を支配できる本質的な権限など持ちあわせてはいない。



他者の命を奪う殺人者を、我々は正しくも閉じ込めるが、しかし、「政府の」敵の血を流させるヒーローとして制服を着た殺人者を称賛するのだ。なぜだろう？

国家主義者（statist）のゆがんだ論理によれば、人間は本質的に邪悪で欺瞞的な存在である。だから、その邪悪で欺瞞的な人々の中から何人かを支配者に任命して、他の人々の邪悪さを止めさせようというのだ。同様に、人は他人を強奪したり殺したりする傾向があるのだから、そういった人々の一部に合法的に強奪して殺す権限を与え、他の人たちの強奪や殺人を止めさせようという話になる。



ある個人や集団が、他者の意志に反してその人を支配する正当な権限を持つという主張は、妄想であり、危険である。したがって、候補者Aによるあなたの支配計画よりも、候補者Bによる方が魅力的という理由だけでBに投票するのは本質を見誤っている。候補者Bに投票して、彼が実際に就任するベストのシナリオでさえ、あなたはまだ奴隷なのだ。自ら進んで首に鎖をかけたという事実は、その関係の本質を何ら変えるものではない。



毎年7月4日、米国が独立記念日を祝うのを世界中の人々が見ている。

人類史において、自由という概念ほど支配階級にとって危険なものはなかった。

いかなる自称権力者も、奪うことを正当化しえない、侵せない権利が存在すること。我々の生命、自由、財産は侵せないものであり、それを侵害せんとする者に抵抗するのは我々の義務である。

今日の民主的独裁国家の背後の権力者であるディープステートのやり方は、はるかに陰湿だ。心理戦を使い、我々に奴隷状態こそ自由であると信じ込ませている。

第12章 「独立」の本当の意味--毎日の選択が自由を決める



自由という理想実現の次の段階は投票箱にはないことである。オリンポス山[神々の住処。神のように崇める態度への皮肉]から降りるよう別の政治家に投票し、これまで政治階級が作ってきた問題を彼・彼女が解決してくれると信じ込むことは、極めて幼稚な空想であるばかりか、それ自体が我々の求める自由そのものの放棄である。

実際のところ、我々がそこに生まれ落ちたこの政治システムそのものが、奴隷制度の一種にすぎない。そして、我々の政治システムの奴隷主人は、カプアの奴隷主人やリチャード王の軍隊よりもはるかに恐ろしいものである。なぜか？ 先人たちとは異なり、彼らは友人、擁護者、「代表者」であるかのように装っているからだ。



国家が権限を持つ唯一の方法 そもそも国家とはサービス機関にすぎない

① 私の警備をしてください。
その代わりに毎月1万円払います。



警備サービスの契約

② 裁判をお願いします。



裁判サービスの契約

③ 道路も整備してください。



道路サービスの契約

私の見解

- 代表者の選出以前に、そもそも、「国家にいかなる権限を持たせるか」の同意文書・契約書が存在していない。
- すべての候補者は「存在していない国家権限」を前提としており、それを公約で問うこともない。
- したがって、国家は無効では？

ここまでの話のまとめ



- 人権（自然権）はこの社会における最高価値である
 - 命が守られ、自由に行動でき、財産が守られる。
- この社会における中心問題は「どうやって人権を守るのか？」である
 - 何にしても「人権が第一」
- 国家を作って守る考え方
 - 国家が個人を超える権限を持ち、人権を守る。
 - しかし、民主主義では暴走する危険性がある。そのために憲法によって縛る。
 - 近代立憲制＋民主主義は妥協の産物
- 国家にはそんな権限はないとする考え方
 - 個人を超える権限が、一体いつ生じたのか？
 - この「サービス機関」と契約などしていない。なぜそこに生まれただけで契約したことになるのか？

日本人の思想の「コペルニクスの転回」 と未だに理解できない人たち



これまでの常識（天動説）
地球が宇宙の中心

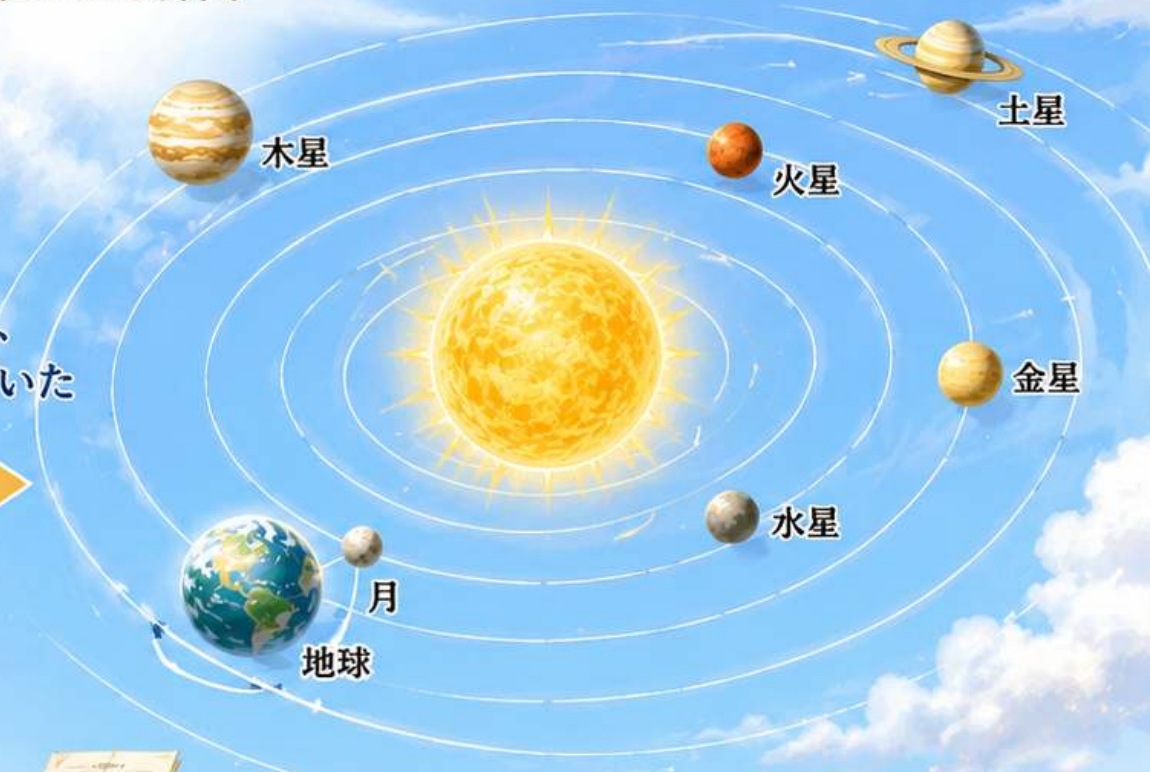
コペルニクスの転回

～世界の常識が180度変わった瞬間～

新しい考え方（地動説）
太陽が中心、地球はそのまわりを回る



問い直す勇気が、
新しい世界をひらいた



- ・ アリストテレスやプトレマイオスの思想
- ・ 地球は動かない
- ・ 天体は地球のまわりを回る
- ・ 人間は宇宙の中心にいる

ニコラウス・コペルニクス
(1473-1543)

- ・ コペルニクスの発見
- ・ 太陽が中心
- ・ 地球は自転し、太陽のまわりを回る
- ・ 人間は特別な存在ではない

「当たり前」を疑うことで、世界は大きく広がる。

平面説・天動説から球体説・地動説へ

- 江戸時代後期、伊能忠敬や高橋至時は、球体説を取り入れ、日本地図作成・新暦作成に成功。それまでの世界観ではなし得なかった。
 - 当時の幕府は半信半疑だったが実用本位。地図はロシアの脅威から国を守り、
 - 暦は幕府の威信を守った。
 - 明治以降は常識となり、政府の
 - 教育に取り入れられた。
- 日本人における文字通りの「コペルニクスの転回」はここで起こる。
- 未だに理解できていない人も



日本国憲法における「コペルニクスの転回」

- 古代から江戸時代まで
 - 武士は主君への忠義を重視。
 - 百姓・町人は身分制度の中で義務を果たす。
 - 「お上」に従うことが美德。
- 明治以降
 - 天皇が主権者
 - 国民の権利は法律の範囲内
- 日本国憲法施行（1947）
 - いきなり基本的人権と国民主権が降ってきた！
- 未だに理解できていない人も

1947年5月3日 日本国憲法施行

いきなり「基本的人権」と「国民主権」!?



平和な国に
していきたい…

戦争に負けて、
GHQに言われる
ままに…

国民が政治の
主人公だと!?

自由って…
何をしても
いいの?

今までと
ぜんぜん
違う…

日本国憲法
基本的人権の尊重
(第11条～第40条)
国民主権
(第1条)
すべての権力は
国民に由来する。

新しい日本のかたち
・基本的人権の尊重
・国民主権
・平和主義

女性も権利を
持つ時代にな
るのね

政府を
批判しても
いいのか!?

言論の自由?
集会の自由?
信じられない…

基本的人権?
そんなもの
あったか?

ぼくたちの
意見も大事に
されるの?

この国は、
これからどう
なるのかしら…

憲法のあらまし

価値観が一転——戸惑いの中で、日本は新しい一步を踏み出した。

現代生活にとって重要なものはすべて輸入

- 漢字：中国から
- 仏教：インド、中国、朝鮮半島
- 律令制度：中国（唐）
- 貨幣制度：中国
- 儒学・朱子学：中国
- 鉄砲：ポルトガル
- キリシト教：欧州
- 近代科学：主に欧州
- 蒸気機関など：欧米
- 自動車・航空機・コンピュータ・インターネット：欧米

AIに聞いた日本発祥のもの

- ひらがな・カタカナ（異説あり）
- 茶道
- 能・歌舞伎
- 浮世絵
- 折り紙
- 寿司（現代の握り寿司）
- 即席麺
- 青色LED（基礎研究には海外の蓄積もあるが、実用化への大きな貢献は日本）

私の見解

- 同じ人類において、あっちとこっちに住んでいるだけの違いで、たまたま歴史や文化によって違いが生じただけ
- 日本人が劣っているとか、外国人が優れているということではない
- しかし、やたらと「日本は世界一の云々」とする者が多すぎるので、事実を並べてみた。彼らは、その生活の基盤となるものが海外からやってきていることを理解できていない。

自由と権利の源は、海外の思想から



ジョン・ロック
自然権・生命・自由・財産



モンテスキュー
権力分立



ルソー
社会契約・人民主権



ジェファークソン
すべての人は
生まれながらにして平等



リンカーン
人民の、人民による、
人民のための政法

アメリカ独立宣言
(1776年)
自由・平等・幸福追求の権利

フランス人権宣言
(1789年)
人は生まれながらにして自由であり、
権利において平等である



あなたがたがこうして自由に行動でき、自由に発言でき、
命が守られるのは、もともとは海外思想のおかげです。

自由に学び、
働く権利

自由に移動し、
旅をする権利

自由に発言し、
表現する権利

家族とともに、
幸せに生きる権利

命が守られ、
安全に暮らす権利

意見は違っても、
人権は同じ。

自由と人権は、長い歴史の中で海外の思想が育てた“人類共通の宝”です。
それを受け継ぎ、未来へつないでいくのは、あなたがた一人ひとりです。

あなたが自由に発言でき、自由に行動でき、
財産を勝手にとられないのは、西洋思想のおかげである。

その恩恵が日本国憲法であるのに、
わざわざ「これを破壊しよう」という言論を行っている者がいる。



ジョン・ロック
自然権思想

モンテスキュー
三権分立

ルソー
社会契約論

自然権 (生まれながらの権利)

- ・生命の権利
- ・自由の権利
- ・財産の権利

など



自由に発言できる



自由に行動できる



財産を
勝手にとられない

自由に意見を
言える！

好きな場所
に行ける！

自分の財産を
守れる！



日本国憲法

基本的人権の尊重
国民主権・平和主義・法の支配

憲法は
いらない！

基本的人権は
制限すべき！

国のために
従え！

自由より秩序！

国家がすべて！



自らがよって立つ土台を、
その土台に立ちながら
破壊しようとしている
愚かさがわかっていない。



自由と権利の土台を守ることが、未来を守ることにつながります。



憲法は、自らへの批判まで保障する

— 日本国憲法は、さまざまな意見を自由に表明する権利を保障しています —



① 「現行憲法は無効だ」と主張する自由も、現行憲法が保障している。

現行憲法は無効だ！

・集会を開く
・ビラを配る
・SNSで発信する
すべて自由！



根拠：憲法 第19条（思想・良心の自由、表現の自由）
第21条（集会・結社の自由）

② 「憲法を改正すべきだ」と主張する自由も、現行憲法が保障している。

憲法を改正しよう！

憲法改正の
手続き（第96条）

国会発議
（各院の総議員の3分の2以上）

国民投票
（有権者の過半数の賛成）

改正成立



根拠：憲法 第19条（思想・良心の自由、表現の自由）
第21条（集会・結社の自由）

③ 「憲法を廃止すべきだ」と主張することさえ、原則として保障されている。

憲法を廃止せよ！

・意見を言う
・デモをする
・本を書いて訴える
それも自由！



根拠：憲法 第19条（思想・良心の自由、表現の自由）
第21条（集会・結社の自由）



これが「立憲主義」の特徴です。

憲法は、権力や多数派の意見だけでなく、少数派や異なる意見まで守ります。
つまり、憲法は“**権力を縛る盾**”であり、すべての人の自由を守る土台なのです。



あなたが憲法を批判できるのも、その自由を守っているのは**日本国憲法**です。

意見が対立しても、暴力ではなく話し合いで未来を決める社会。それが立憲主義の国です。



「GHQの押し付け憲法だ！」という割には、日本の政治や軍事が米国言いなりであることを批判しません。

日本国憲法はGHQの押し付けだ！



憲法だけを攻撃！

- ・主権を奪われた
- ・日本らしくない
- ・戦争放棄はおかしい
- ・自分たちで作った憲法に変えるべきだ！

どっちが本当の「自立」なの？

？

反論としてよく言われること



- ✓ 憲法は国家の根本法だから、特別な問題だ。
憲法は国のかたちを決める最も重要なルールだから、GHQの影響を強く問題視するのは当然。
- ✓ 安全保障上、日米同盟は現実的に必要だ。
厳しい国際環境の中で、米国との協力は日本の安全のために不可欠。

しかし、現実とは？

日米安全保障条約	在日米軍基地	対米外交・政策	米国製兵器の購入	情報・技術の依存
日本の安全保障は米国に大きく依存	日本全国に米軍基地が存在し続けている	重要な外交・安全保障政策は米国の意向を強く意識	高額な米国製兵器を大量に購入	情報衛星や先端技術も米国に大きく依存

論理的に考えると…



「外国の影響」を問題視するなら、憲法制定時の影響だけでなく、現在も続く対米依存についても、**同じ基準で検討すべきではないか？**

もし本当に「外国の押し付け」を問題にするなら、なぜ**憲法だけ**を批判して、これらは問題にしないの？

憲法だけ批判して、対米依存は黙認？

一貫性がないと、建設的な議論になりません。
本当の「独立」と「自立」のためには、すべての問題を冷静に見つめ直す必要があります。

目指すべきは…

- ✓ 憲法も、外交も、安全保障も、すべてを国民の手で考え、決める。
- ✓ 必要な同盟は維持しつつ、対等で自立した関係を築く。
- ✓ 日本の未来を、日本人自身の意思で切り開く。

対米依存からも自立した、真の主権国家へ

一貫した視点と冷静な議論こそが、本当の国益と自由を守ります。



実際には、改憲を最も望んでいるのは米国

- 1945-1952、日本はGHQの占領下に
- GHQは日本の民主化・非軍事化を進めた
 - その一環として日本国憲法
- 1947：米政府は「日本を共産主義の防波堤にする」ことにした。最初の二年とはまるで逆（逆コース）。
- 1950：警察予備隊（陸上自衛隊）
- 1952：海上警備隊（海上自衛隊）
- 1955：CIA支援による自民党結党。当初から改憲を掲げる

「逆コース」で検索

つまり。。。

- 米国による日本支配に反対せずに、改憲に賛成するのは、米国完全言いなりである証拠
 - 改憲派の態度を見ればすぐにわかることです

「彼ら」のテーマは
「いかにして自発的に人権を捨てさせるか？」



国家権力（支配層）は国民の人権を剥奪したい つまり、奴隷にしたい

- 人類の歴史上常に行われてきたこと
 - ひと握りがいい思いをし、他者を言いなりにして搾取する
 - 自発的にそうしてくれるよう、**思想注入**を行う
 - 王権神授説
 - 優生思想
 - 楽しまされて奴隷化される
 - 現代ではもう少し込み入っている（後で説明）

古代エジプト人は、ファラオが太陽神ラーの子孫だと信じていた。日本人は、皇室が太陽の女神である天照大神と海の神である龍神の子孫だと信じていた。中国人は皇帝が「天命」の下に統治していると信じていた。そして欧州人は、神ご自身が各国の君主を承認したという「王権神授説」を信じていた。

結局のところ、王、女王、皇帝、ファラオが神でなければ、あるいは神が選んだ者でなければ、なぜ彼らに従う必要がある？ 王の神性が否定されてしまえば、威厳のある王と無能な独裁者の違いは消えてしまう。



1859年、チャールズ・ダーウィンが『種の起源』を出版した。10年も経たずに、ダーウィンの従兄弟のフランシス・ゴルトンが『遺伝的天才』を出版した。この著作では、裕福で成功した人々が、裕福で成功する子孫を産む可能性が高い理由を考察したものだ。

裕福な実業家や成功した政治家、才能ある科学者なのは、良い遺伝子によるものだ。金持ちで権力を持つ者は他者を支配するに値する。その循環論法によれば、その血統が彼らを金持ちで権力者にしてきたからである [良い血統の者は他者を支配するに値するとの古来からの前提に立つ] 。



もう一人の有名な優生学熱狂者は、マリー・ストープスである。1921年、彼女は英国初の家族計画クリニックに関連する組織「建設的避妊と人種的進歩協会」を設立した。

驚きでもないが、彼女は、1939年にはヒトラーに自著『若い恋人たちのための愛の歌（Love Songs for Young Lovers）』を送り「既にヒトラーが、ユダヤ人の市民権剥奪や全土規模のユダヤ人襲撃を行っていた頃」、1942年には「カトリック教徒、プロシア人、ユダヤ人、ロシア人、みんな呪いであるか、もっとより悪いものだ」[15]という文章を含む詩を作り、英国優生学協会の終生フェローであった[16]



米国優生思想の代表的論客であるマディソン・グラントが、1916年の『偉大な人種の消滅（The Passing of the Great Race）』で北欧人優位を主張し、人種混血の危険性と厳格な優生法の必要性を説いたが、それに対してドイツ軍の若き伍長アドルフ・ヒトラーはグラント宛への私信で、この本は自分の「バイブル」と書いていた[32]

第4章 あなたは繁殖に不要!?!--科学の名の下の「優生学」

特にロックフェラー家は、長い間優生学運動と密接な関係にあった。彼らは米国の優生学記録局とドイツのカイザー・ヴィルヘルム研究所に資金提供したが、どちらも優生学の理念と使命を世界に広める上で不可欠な存在だった[14]。

第16章 誰が環境保護運動を操っているのか?--王族、石油王、優生思想



楽しまされて奴隷化される

米メディア批評家ニール・ポストマンが、1985年の著書『愉しみながら死んでいく－思考停止をもたらすテレビの恐怖』（邦訳：三一書房）の中で、こうした対照的な支配方法について触れている。彼が指摘したこととしては、テレビのニュース報道の、脈絡がなく、せわしなく、絶えず焦点を移すという性質によって視聴者の感覚を麻痺させ、個人の自由や公共の自由に対する最も大胆な侵害に対しても視聴者の反応を鈍らせてしまうことである。

武力やむき出しの攻撃性に頼る支配システムを超えて、ハクスリーが説明する「同意を誘導し、人々が隷属を愛するように仕向ける非テロ的技術」の数々がある。

第9章 服従を楽しむ方法--快適さと引き換えに奪われた自由



優生思想：日本も例外ではない

- 明治時代：優生思想の流入（1890年代～）
 - 遺伝病を減らす、「国民の質」を向上させる、強い国家をつくる科学的進歩
- 大正～昭和初期：「民族改良」思想
 - 精神疾患、知的障害、遺伝病、一部の身体障害は「社会に負担を与える存在」
- 1940年：国民優生法
 - 強制不妊手術、結婚制限の制度化
- 戦後：優生保護法（1948）
 - 民主化された戦後日本で優生政策はむしろ強化。
- 強制不妊手術（1948～1996年）
 - 約2万5千人が手術を受け、うち約1万6千人は本人の同意なし
 - 知的障害、精神障害、遺伝性疾患と判断された人

そして今も

- 日本人は優れた人種である
- 中国人などは劣った人種である

血統にしかアイデンティティを見いだせない
弱く情けない人間が、こういった言動を行う

歴史的に証明済み：自主的人権返上方法

自由は不安
だから強力なリーダーに従う



ラ・ボエシ 『自発的隷従論』 (16世紀)

- 独裁者は人々が支えるから独裁者でいられる。人々が自ら従うことをやめれば、その支配は維持できない。
 - 暴君は一人では何もできない
 - 人々は自ら従ってしまう
 - 利益による支配
 - 恐怖だけでは続かない
 - 解決策は「従うのをやめること」



エーリッヒ・フロム

『自由からの逃走』(1941)

- ナチスの手を逃れて米国で書いたもの。
- 簡単に言えば、「人間は自由を求めるが、一方で、その自由の重みに耐えきれず、そこから逃げ出そうとする。そして、お母さんのように包んでくれる大きな存在にすべてを委ね、従っていたい」。



ラ・ボエシとフロムの違い

- ラ・ボエシ：一人の人間が、なぜ何百万人を支配できるのか？
 - 習慣、慣れ、利益、支配への協力
 - 従ってしまう理由についての分析は不十分
- フロム：自由になったはずなのに、なぜ人は独裁者を支持するのか？
 - 自由そのものが苦しい。孤独になる、不安になる、自分で責任を負う、選択しなければならない
 - 人は自由が怖いので従ってしまう

もしフロムを読むなら。。。。

- 生きるということ (To have or to be?)
 - 何を持つかでなく、何を創造したか、どう愛したか、自分らしく生きたかが人生の価値
- 愛するということ (The art of loving)
 - 愛とは自然に湧き上がる感情ではなく、学び、訓練すべき技術である
- 自由からの逃走 (Escape from freedom)
 - (それなりに難しいです)
- 他にもたくさん：マルクスの人間観、悪について、希望の革命、正気の世界、疑惑と行動、反抗と自由



フロム当時の状況

- 社会全体

- 第一次世界大戦の敗戦
- ヴェルサイユ条約への不満
(自分たちは一方的に戦争の全責任を負わされ、不当な罰を受けた)
- 世界恐慌による大量失業
- 政治の混乱

- ヒトラーの思想

- ユダヤ人が国際金融を支配している
- ユダヤ人が共産主義を操っている
- ユダヤ人が報道や文化を支配している
- ユダヤ人がドイツ民族を内部から弱体化させている

ドイツ国民への心理効果

- 複雑な問題を単純化：敗戦、インフレ、失業、政治の混乱などの原因はユダヤ人
- 敵の明確化：ユダヤ人を非難し、排除すれば良い
- 自尊心の回復：「弱かった、戦争に負けた、世界から軽蔑されている」ではなく、「悪者のせいで負けた」
- 自分で悩まなくてよい：味方は誰で、敵が誰か、何をすべきかを提示。
- 自分は善である：「ドイツ民族を守る」という大義名分により、迫害や差別でさえ「敵の排除」という正義感に。

フロム的な解釈

- 自由は不安を伴う：自分で考え、責任を負わねばならない。将来が保証されない。
- 単純化によって不安から解放：「原因はユダヤ人」
- 「考える自由」から「従う安心へ」：総統が判断してくれる。
- 「漠然とした不安」から「明確な敵への怒り」に変換
- 自分は「善の側」にいる：「私はドイツ民族を守っている」という物語により、迫害でさえ「正義」になる。

ヒトラーは、人々の「自由から逃げたい」という欲求に応えた

フロムの分析：人々は「自由から逃走」し、ヒトラーの物語に安心を求めた

1. 社会の状況

敗戦・条約・経済危機・政治の混乱が人々を不安にした



- ・第一次世界大戦の敗戦
- ・ヴェルサイユ条約への不満
- ・世界恐慌による大量失業
- ・政治の混乱・不信

2. 複雑な問題の単純化

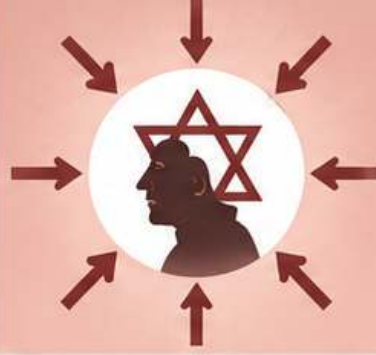
ヒトラーは、すべての原因を「ユダヤ人の陰謀」と説明した



原因は一つ、敵は一つ。
世界はシンプルでわかりやすいと
感じられる。

3. 敵の明確化

「ユダヤ人」を敵とすることで、怒りの向け先がはっきりした



漠然とした不安が、明確な怒りへへ。
「誰を憎めばよいか」がわかる
ことで、心理的に楽になる。

4. 自尊心の回復

「裏切られたのだ」
という物語が、誇りを取り戻した



「自分たちが悪かったのではない。」
「ドイツ民族は優れている。」
という感覚がよみがえる。

5. 考えなくてよい安心感

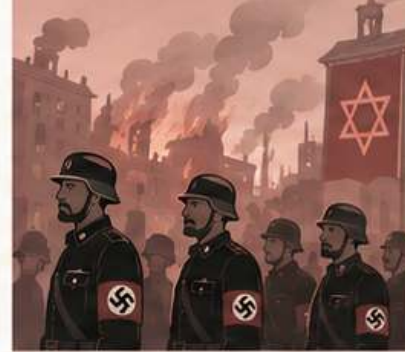
ヒトラーがすべてを決めてくれる
という安心感を得た



自分た考え、判断し、責任を
負うことから解放される。
「従えばよい」だけでよくなる。

6. 「正義」を行っている感覚

「民族を守る」という大義のもと、
迫害や暴力を正当化できた



「悪を排除しているのだ」
という思いが、罪悪感を
なくし、残酷さを可能にする。

フロムが指摘した心理的メカニズム（自由からの逃走）

不安・孤立・無力感

世界の単純化

敵への憎悪へ

権威への服従

同質な集団への帰属

自由の放棄



自由と不確実性に耐えられず、
強い不安に陥る。



複雑な現実を単純な物語に
置き換え、理解した気になる。



不安を「敵への憎悪」に変換し、
心の安定を得る。



強い指導者に従うことで、
判断の責任から逃れる。



同じ信念を持つ集団に属することで、
孤立感が消え、安心を得る。



自由に伴う不安と責任を手放し、
「従うこと」を選ぶ。

フロムの結論



ヒトラーは人々を洗脳したのではない。
人々が抱えていた「自由への不安」に
応答したのである。



自由から逃走した人々は、自らの自由を手放し、
安心・帰属・確信を与えてくれる権威に自発的に従う。



何でもできる自由は、
時に不安を生む

自由とは
自分で考えること
自分で決めること
責任を負うこと
不安・孤独
でも、自分の人生

自由
安心・服従

考えるな
従え

私について来れば
安心を与えよう

不安からの解放
責任を取らなくていい
みんなと一緒に安心
強いリーダーが守る
母親のように
包んでくれる存在

人は、不安になると、自分で考えることをやめ、
「誰かに従う方が楽だ」と思ってしてしまうことがある。

現代日本に似ていませんか？

- 不安が強まる社会では、人々が単純な説明・強い指導者・明確な敵を求めやすくなるという心理傾向がある。
 - 将来不安、経済格差・生活苦、社会問題の複雑化
 - 「先の戦争において日本は悪くない。日本を貶めるのか？」
 - 「敵は中国人。連中が悪さをしている」
 - 「私は日本を守っている。私は正義」
 - 「日本人の誇りを取り戻せ！」
 - 「我々は世界一の民族だ！他の民族とは違う！」

高市が中国との関係を悪くする

- 中国なしでは現在の日本は立ち行かない
- 産業は弱体化し、経済状況は悪くなる
- それにつれて、しかし「強いリーダー」を求めることになる
- ますます中国を敵視
- 要するにマッチポンプ

最終的には

- 強いリーダーに従えばいい（単純な発想）
- 中国人は排除、異を唱える者も排除すればいい
- 中国の侵略に備え、戦力を強めよう。国民は耐えろ
- 政府が我々を守れるよう、憲法を改正しよう
- 国を守るため全員が一致団結しよう！

戦時中の日本との共通点



- 社会状況：
経済不安（昭和恐慌など）、政党政治への失望、国際情勢の緊張、将来への不安
- 単純でわかりやすい物語：「国家のため」「天皇のため」「国体を守るため」
- 同調圧力：「非国民」「国賊」「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」
- 敵の単純化：鬼畜米英。中国人については非人間化
- 集団の結束：共通の敵により「われわれ」という共同体意識
- 不安を怒りに変換：戦況の悪化や生活苦への不安が、敵への怒りに

不安が高まる社会では、
人々は「複雑な現実」よりも、「善と悪」「われわれと敵」という
単純な物語に安心を求めやすくなる。

複雑な現実

わかりにくい・先が見えない



不安が
高まると...

単純な物語

わかりやすい・安心できる



「支配者」に好き勝手させるための ソーシャルエンジニアの戦略

自主的に自由を返上させること
同調圧力で全員を従わせること



ソーシャルエンジニア

- 大衆心理、教育、メディア、経済、テクノロジー、法律などを利用して、人々の価値観や行動を望む方向へ長期的に誘導しようとする人々。

ソーシャルエンジニアたちはわかってるんです、いくつかの基本的なテクニックで大衆など容易に誘導できることを。彼らは、特定の重要な問題について人々を沈黙させるために力や強制を用いて威嚇することもあるれば、社会的拒絶への恐れを利用して、人々が重要なことを口にできないようにすることもあります。たとえば「アッシュの同調実験」が示したように、人々は、自分が信じていないことでも、周囲の集団が誤った答えで一致しているというだけで、それを「正しい」と主張させられてしまうことさえあります〔自身の目に見える真実よりも間違った「集団の意見」に人々が合わせてしまうことを観察する実験〕。

ジェームズ・コーベットへのインタビュー



コロナ禍

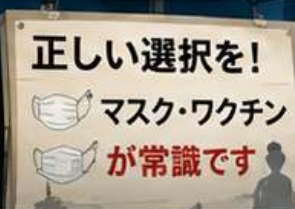
- 憲法の人権条項(※)により、他国とは異なり、マスク・ワクチン・自粛の強制はできない。
 - 実際に職場でワクチン強制されようとした夫外国人・妻日本人が日本に逃げてきた事例もあり
- しかし、日本では同調圧力によって同じことが行われた。
 - つまり、自主的な人権返上が行われた。

※明文ではないが、「身体的自己決定権」があるとされる

コロナ禍で示された「同調圧力」という見えない支配

法的根拠のない同調圧力によって、マスク・ワクチンの半強制が行われた

情報操作・誘導



支配層

政治・官僚・大企業・
メディア・製薬会社など

同調圧力
見えない鎖

- ・莫大な利益
- ・権力の維持
- ・国民の管理強化



不安を煽る情報・一方向の報道・SNSでの拡散

人々の思想をコントロールし、意のままに



マスクしない人は
非常識・自己中!



ワクチン打たないの?
信じられない!



みんなやってるよ?
空気読んで!



職場・学校での圧力
同調しないと
居場所を失う



行動の制限・差別
旅行・イベント参加
入店・利用の制限



異論を言う人の排除
SNSでの攻撃・中傷
心身へのダメージ

自分で考えることをやめ、周りに合わせることが“正義”になった

人々の思想を左右して「支配層」の意のままにできることを如実に示した

憲法の人権条項(※)により、他国とは異なり、マスク・ワクチン・自粛の**強制はできない**。

しかし、日本では**同調圧力**によって同じことが行われた。

憲法が保障する基本的人権

日本国憲法により保障された権利の例

- 思想・良心の自由 (第19条)
- 身体の自由 (第13条)
- プライバシーの権利 (第13条)
- 表現の自由 (第21条)

憲法の人権条項により、**マスク・ワクチン・自粛の強制はできない!**



※第11条～第40条 (基本的人権)

しかし、日本では同調圧力によって同じことが行われた



同調圧力の正体

「みんなと同じであること」が正義とされ、異なる考えや行動が批判・排除される空気

つまり、自主的な人権返上が行われた



法律で強制されたのではなく、「周りに合わせるため」に従った。それは、知らず知らずのうちに人権を手放すこと。

気づくことが、取り戻す第一歩。

詐欺デミック（scamdemic）への反応を見ればとても明快でしょう。米国や他の西側諸国では、マスク、ロックダウン、ワクチン接種などが法律や命令として強制されました。日本では、ロックダウンは法的なものではなく、マスク着用の法律はなく、ワクチン接種も法的義務はありませんでした。

にもかかわらず、結果はもちろん、ほぼ同じでしたね。日本人のほぼ全員が、ほとんど常時マスク着用、法的権利としてマスク非着用を主張した人は、嫌がらせを受けたり、不当逮捕の例すらありました。そして、日本のワクチン接種率は世界最高レベルになったんです。

ジェームズ・コーベットのインタビュー



ニッポンのディープステート(DS)

日本のソーシャルエンジニアと
そのコマたち



「ディープステート」という言葉が 安易に使われている

- トランプの言う「DS」とは「民主党と結びついた既得権益ネットワーク」のこと
- ここでは、この言葉を作った（とされる）ピーター・デイル・スコットの定義を用いる（2007）。

参考：『ジェームズ・コーベット：ディープステートとは何か？』

www.jimakudaio.com/what-is-the-deep-state

DSとは気象現象（システム）のようなもの

- 例：台風が起こる原因は一つではない。
 - 海面水温が約26.5～27℃以上と高い
 - 暖かい海水が十分な深さまで存在する
 - 大気が不安定で、暖かく湿った空気が上昇しやすい
 - 地球の自転によるコリオリの力が十分働くこと（赤道付近ではほとんど働かないため台風は発生しにくい）
 - 上空の風が強すぎない
 - もともと熱帯収束帯や熱帯低気圧の「種」となる弱い低気圧や波動が存在する
 - 発生した後も、水温、上空の風、周囲の高気圧・低気圧、ジェット気流、他の台風との相互作用、海洋から供給される熱量などに影響され、発達・衰弱・進路を変える。

DSには特に司令塔があるわけではない
異なる勢力があるが、結果的に一定方向に向かう

- 日本会議
- 統一教会
- 自民党ほか
- 各種新聞・テレビ・WILL・H
anada
- 官僚たち
- 大企業・多国籍企業
- 世界経済フォーラム
- ビルダーバーグ会議
- Dialog（ピーター・ティール）
- CIA
- 桜井よしこ
- 田母神俊雄
- No Border（YouTube番組）
- 橋本琴絵
- 平野雨龍
- 河合ゆうすけ
- 百田尚樹
- 藤井巖喜
- 我那覇真子
- 門田隆将
- （他にもたくさん）

ニッポンのディープステート 強弱はあるにせよ、共通するもの

- 国家への忠誠・愛国心を重視。
- 伝統や歴史、文化の守りを重視。
- 天皇や国旗・国歌などの国家的象徴を尊重。
- 共同体の秩序や規律を重視。
- 個人の自由よりも社会全体の安定や公益を優先する。
- （グローバリズムや急激な社会変化への警戒を示す）

この達成には宗教的信念の醸成がてっとり早い
自然権とは真逆、個人は「神（国家）」のために尽くす

我々の味方が敵かを 簡単に知る方法

この点をごまかせはしない



基本事項を押さえているか？

- 自然権思想（人権は国家より先に存在する）
- 社会契約論（国家の正当性は人民の同意に由来する）
- 近代立憲主義（国家権力は憲法によって制限される）
- 国民主権（民主主義）（最終的な主権者は国民である）

現代の立憲民主国家の基礎原理（4つの柱）

現代の立憲民主国家では、多くの場合、次の4つが基礎原理になっています。

1 自然権思想

（人権は国家より
先に存在する）



人は生まれながらに
基本的な権利を持っている



生命権 自由権 平等権 幸福追求権

人権は国家から与えられるものではなく、
人間が本来持っている権利である。

2 社会契約論

（国家の正当性は
人民の同意に由来する）

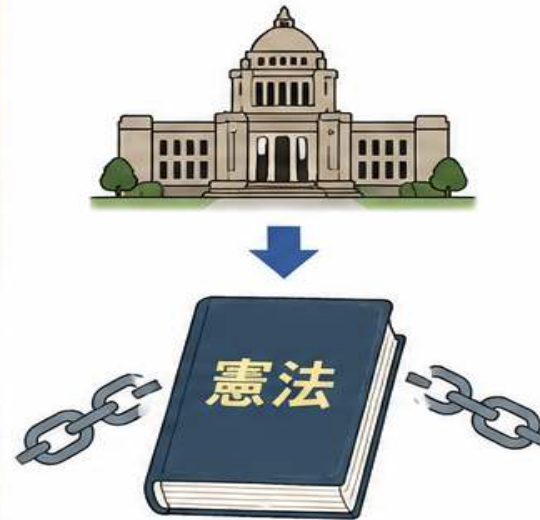


国家は国民の合意によって
つくられたものである

国家は、人々が互いに約束し、
協力して社会を維持するために
成立したものである。

3 近代立憲主義

（国家権力は憲法によって
制限される）

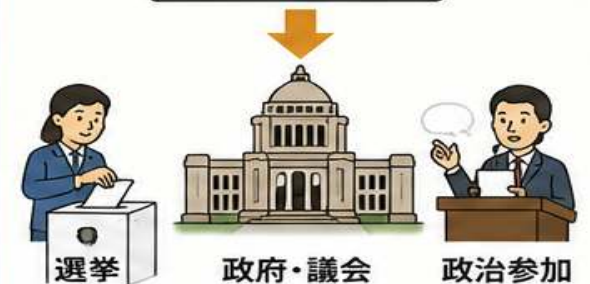


権力は憲法によって縛られ、
濫用が防がれる

憲法は、国家の権力を制限し、
国民の権利と自由を守るための
ルールである。

4 国民主権（民主主義）

（最終的な主権者は
国民である）



国民の意思によって政治が
行われる

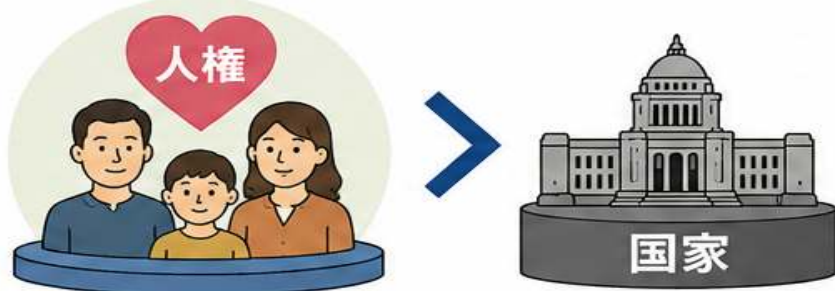
国民が選挙や政治参加を通じて、
政治に参加し、権力の最終的な
決定を行う。

この4つの原理が、自由・平等・公正な社会と、国民の権利を守る国家の基盤となっています。

ある団体や思想を評価するときの5つの視点

以下の点を見れば、その思想の位置づけがかなり明確になります。

① 人権を国家より上位に置くか



人権（個人の尊厳・自由）が国家権力より優先されるか。

② 権力の正当性を何に求めるか



国民の合意
人民の同意・
民主的正当性



神
神の意志・
宗教的権威



民族
民族の伝統・
共同体の意志



皇統
皇室・皇統の
正統性



革命
革命の理念・
歴史的使命



階級
階級闘争・
歴史的必然

その思想や団体は、どこに権力の正当性の根拠を置いているか。

③ 権力を制限しようとするのか、それとも強化しようとするのか



制限

憲法・法・制度によって
権力を縛り、濫用を防ぐ



強化

権力を集中させ、
国家や組織を強くする

④ 最終的な決定権は誰にあるのか



国民

国民が主権者で
最終決定する



宗教指導者

宗教的権威が
最終決定する



国家

国家機関が
最終決定する



党

党の指導部が
最終決定する



君主

君主・皇帝が
最終決定する

最終的に、誰が最も大きな決定権を持つのか。

⑤ 総合的に判断する



上記の4つの視点を総合して、その思想や団体がどのような価値観に立っているのかを明確に位置づける。



これらの視点から考えることで、思想や団体の本質・特徴・立ち位置が明確になります。



20世紀の主要なイデオロギー（概略比較）

思想	自然権	社会契約	立憲主義	国民主権
自由民主主義	○	○	○	○
共産主義 （レーニン型）	△	×	×	×
ファシズム	×	×	×	×
国家社会主義	×	×	×	×
神権政治	×	×	△	△

「保守」「革新」「右」「左」という曖昧なラベルはやめよう

重要なのはこの4つだ

曖昧なラベルでは、何もわからない



- 人によって意味が違う
- 時代や国が変われば中身が変わる
- 本質（思想の基礎）を見えなくする
- 感情やイメージで判断してしまう



ラベルではなく、本質を見ることが、正しい理解と判断につながる

思想を見極めるために重要なのは、次の4つ

1 自然権思想

人権を国家より上位に置くか？



2 社会契約論

権力の正当性を何に求めるか？



3 近代立憲主義

権力を制限しようとするか、それとも強化しようとするか？



4 国民主権（民主主義）

最終的な決定権は誰にあるのか？



この4つの視点で見れば、どの思想・団体も、その本質と立ち位置が明確になる

本質を見抜くことが、自由で公正な社会を守る第一歩である

政治の主要関心事を、2つの（支配された）側のいずれかが主張可能なわずかな問題に限定し、上昇派は社会全体を一つのゴールに導けるのだ。まず右足を一步、左足を一步、右足を一步というように、我々がある地点から他へと移動するのとまったく同じ方法である。

上昇派が最も恐れるのは、目覚めそのものである。自分たちのシステム、つまり我々が生涯にわたり強制的に植えつけられてきた左右対立の政治的ごまかしが幻想にすぎないという知識が、単純に広まっていくことだ。長い間眠りにについていた下降派がひとたび動き出せば、恐怖に基づく上昇派の脆弱な体制に対抗する、止めようのない力となることを彼らはわかっているのだ。



宗教的信念の醸成： 個人より国（神）を上に置く

そして個人の自由を放棄させる



現行憲法下の少なくとも建前国家像

国とは、民のための器である

憲法＝権力者が国民に対して
勝手ができないように縛る



最高価値は「民」。国の中に
いるから「国民」と呼ばれる

最高価値



「器」を運営する
権力者。腐敗しがち

国とは、国民の生命・自由・幸福
を守るための「器」でしかない

ネトウヨ、歴史修正主義者などの目指す国家像

器を愛せ＝権力者を支えよ

国家神道：宗教でないフリを
しながら完全な宗教

最高価値



「国」と呼ばれる
ただの「器」

腐敗し放題な
権力者



推進者はここに
なれるつもりでいる

「国民」は彼らのために尽くすこと



改憲勢力の真の狙い ― 条文自体ではなく、自由と権利を自ら放棄させること（心の構造の書き換え）

政治・制度設計～「形式的民主主義」による統治

憲法改正や緊急事態条項によって政府の権限を集中させ、「もう決まったこと」と思わせることで抵抗を弱める。

教育・価値観の再設計～「自由より秩序」の刷り込み

「権利よりも義務、国や家族に尽くす」を「正しい生き方」として教え、自分で考えるより従うことを良しとする人を育てる。

メディア・情報心理戦～「敵」を作り、「愛国」を演出

「外敵、危機、誇り」感情で煽り、冷静な思考力を奪う。
異論を言いにくい空気を作り、同調で安心を得る社会を作る。

宗教・スピリチュアル動員～「信仰的ナショナリズム」の構築

国家や指導者を「神」のように扱い、従うことを美德とする。
異論は“信仰が足りない”と見なされ、批判が許されなくなる。

ネット世論操作～「共感圏」の支配

SNSや動画で世論を操作し、「これが多数派だ」と思わせる。
その結果、異なる意見を言う人が孤立し、声を上げづらくなる。

文化・記憶の再構築～「戦前の論理」を再神話化

昔の日本の姿を理想化し、家族や伝統を強調することで、「自由や多様性はわがまま」「従うことが立派」と感じさせる。

制度的・法的
（顕在的支配）

文化的・感情的
（長期的操作）

人々の「常識」と「感情」を国家に都合よく作り変え、自ら進んで自由と権利を放棄させ、それに納得させる

日本会議の成立過程

— 戦後保守運動の流れから1997年の統合まで —

① 戦後保守運動の流れ (1945～1970年代)

日本国憲法の制定、教育改革、
政教分離などに反発する
保守運動が各地で生まれる。

主なテーマ

- 憲法改正
- 教育勅語や道徳教育の復活
- 天皇を中心とする国家観
- 靖国神社国家護持
- 家族制度の維持



全国的な統一組織はなく、
多くの保守団体が別々に活動

② 日本を守る会 (1974年)

神社界が中心となり結成。

特徴

- 神社・神職・神道関係者が中心
- 神社本庁系の人脈が基盤
- 神道政治連盟との結びつきが強い
- 皇室尊重
- 靖国神社国家護持
- 憲法改正



③ 日本を守る国民会議 (1981年)

財界・学者・保守文化人・
政治家などを広く集めて結成。

特徴

- 財界、学者、保守文化人、政治家
などが参加
- 改憲、教育改革、防衛力強化、
愛国心教育を推進

代表的な参加者（当時）



瀬島龍三
(元軍人・実業家)



塚本幸一
(ワコール創業者)

など

④ 保守運動の停滞と 新たな課題 (1980年代後半～)

冷戦終結、バブル崩壊、自民党政治の
変化などにより保守運動は停滞。
一方で新たなテーマが浮上。

新たなテーマ

- 従軍慰安婦問題
- 歴史教科書問題
- 皇室問題 など



⑤ 1997年 統合 日本会議の設立

「日本を守る会」と
「日本を守る国民会議」が統合し、
日本会議が誕生。

主な目的・主張

- 憲法改正（特に第9条改正）
- 教育基本法改正・教育改革
- 皇室尊重
- 家族制度重視
- 安全保障強化
- 伝統文化の尊重
- 歴史認識の見直し



日本会議

設立の背景：共通する問題意識と目的のもとに統合

戦後の占領体制からの脱却、
伝統的価値観の回復、
自主憲法の制定を目指すという
共通の問題意識を持っていた。

日本を守る会
(1974年)

神社界・神道関係者中心

日本を守る
国民会議
(1981年)

財界・学者・保守文化人・
政治家中心

1997年 統合
日本会議
の設立

⑥ 神社本庁・神道政治連盟との関係

日本会議そのものは宗教法人ではないが、
神社本庁・神道政治連盟との人的重複が多い。



神社本庁



神道政治連盟

日本会議

人的ネットワーク
理念・活動で緊密に連携

⑦ 国会議員懇談会 (1997年以降)

日本会議の目的に賛同する国会議員が集まり、
超党派の「日本会議国会議員懇談会」を結成。



日本会議国会議員懇談会
(超党派)



日本会議の思想的特徴 (共有する価値観)

- 現行憲法（特に第9条）の改正
- 戦後レジームからの脱却
- 皇室を中心とする国家観
- 家族制度の重視
- 愛国心教育の推進
- 歴史認識の見直し（戦後史観への批判）
- 靖国神社参拝の支持
- 伝統文化・国柄の尊重

日本会議とは

日本の歴史・文化・伝統を重んじ、国のかたちを見直し、自主憲法の制定を目指す民間団体。
全国の地方議員、国会議員、神職、教育関係者、文化人などが参加し、政策提言や啓発活動を行っている。



日本会議の狙いとその方法

— 彼らが目指すものと、その実現の手段 —

1. 日本会議が公表している目的

日本会議は、公式には「日本の伝統と文化を尊重し、国のかたちを見直すこと」を目指す団体であると説明しています。



日本会議は、これらを「戦後体制の見直し」「日本の歴史や文化に根ざした国づくり」と説明している。

日本会議の根底にある価値観・思想

近代立憲主義の考え方
(自由主義・リベラリズム)

個人
↓
社会
↓
国家

個人の自由・人権を
出発点とし、国家権力は
それを守るために存在する

日本会議に近い考え方
(伝統・共同体重視)

国家・共同体
↓
家族・地域
↓
個人

国家や共同体の維持が
最優先で、個人はその一員
としての役割を果たす

めざす社会のイメージ

日本の伝統・価値観を基盤とする「調和と秩序のある社会」
(皇室を中心とした国家、家族の絆、道徳と愛国心のある国民)

2. 研究者や批判者が指摘する狙い(分析)

① 戦後体制(1945年以降)の見直し

- ・ 現行憲法(特に第9条)、教育制度、歴史認識、個人主義など、戦後の改革を修正しようとする運動。



② 国家共同体を重視する思想

- ・ 個人よりも国家や共同体を優先する価値観。
- ・ 伝統や秩序、同質性を重んじる傾向。



③ 国家への帰属意識を高める

- ・ 国旗・国歌、愛国心教育、皇室、靖国神社、道徳教育などを通じて、国民の一体感と同調を促す。



批判者の見方

上記の動きは、個人の自由や多様性を制限し、国家への同調圧力を強める方向につながるおそれがあると指摘される。



3. その方法(実現に向けた主な手段)

① 政治家との連携

「日本会議国会議員懇談会」などを通じて、国会議員や地方議員と連携し、法改正や憲法改正を目指す。



- ・ 憲法改正
- ・ 教育基本法改正
- ・ 歴史・文化に関する法整備
- ・ 安全保障関連法制の後押し など

② 地方議会への働きかけ

地方議会に対して請願や意見書の提出を行い、条例制定や国への意見表明を促す。



- ・ 教育現場での国旗掲揚・国歌斉唱
- ・ 「道徳教育」の推進
- ・ 靖国神社参拝に関する意見書 など

③ 教育への影響

教育基本法や教科書、道徳教育などに関する提言や圧力を通じて、教育内容の方向性に影響を与える。



- ・ 教科書検定への意見提出
- ・ 教育基本法改正の提言
- ・ 道徳教育の「充実」 など

④ 世論形成・啓発活動

講演会、出版、シンポジウム、インターネット、署名活動などを通じて世論を形成する。



- ・ 講演会・研修会の開催
- ・ 書籍・雑誌の発行
- ・ オンラインでの情報発信
- ・ 署名活動・国民運動 など

⑤ 人的ネットワーク

神社本庁・神道政治連盟、保守系団体、企業、教育関係者などとの幅広いネットワークを活用する。



- ・ 神社界との強い結びつき
- ・ 保守系団体との連携
- ・ 財界・有識者・文化人の参加

4. 狙いと方法の全体像(まとめ)

狙い (目指す社会の実現)

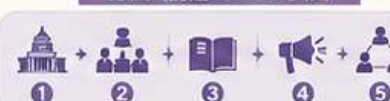
- ・ 戦後体制の見直し
- ・ 伝統・文化の尊重
- ・ 皇室を中心とする国家観
- ・ 家族の絆の強化
- ・ 国民の愛国心と道徳心の向上
- ・ 安全で自立した国家の構築



多様な団体・個人が結集



方法(前述の5つの手段)



結果として 目指す方向

- ・ 憲法改正の実現
- ・ 教育・文化の方向転換
- ・ 国家への帰属意識の強化
- ・ 伝統的価値観に基づく社会の形成



評価の違い(立場による見方の違い)

支持者の見方

- ・ 伝統や文化を大切に、日本を良くする運動である。
- ・ 愛国心や道徳心を取り戻し、国を守ることにつながる。
- ・ 戦後の歪んだ価値観を正す必要がある。



批判者の見方

- ・ 個人の自由や多様性を制限し、同調圧力を強めるおそれがある。
- ・ 歴史認識の偏りや、特定の価値観の押し付けにつながる。
- ・ 民主主義や立憲主義の後退を招く危険がある。



ポイント

日本会議は「民間の運動体」であり、特定の政党ではない。しかし、政治・教育・社会の各分野に影響を与えながら、長期的・組織的に目標の実現を目指していると分析されている。



日本会議の思想は、自然権、社会契約論、立憲主義、民主主義とは **真逆**である

近代憲法思想の基本原則



自然権

人は生まれながらに
侵すことのできない権利を持つ



社会契約論

国家の正当性は
人民の合意に基づく



立憲主義

権力は憲法によって制限され、
暴走を防ぐ



民主主義（国民主権）

主権は国民にあり、
政府は国民の意思に従う

個人の権利と自由を守るために、
国家権力を制限し、国民が主権者である

VS

日本会議の思想



個人の権利よりも
国家・伝統を優先



人民の合意よりも
歴史・伝統・皇統を重視



憲法による制限よりも
国家の強さ・秩序を優先



国民の意思よりも
国柄・伝統・共同体を優先

国家・伝統・共同体を最優先し、
個人の権利や国民の主権を後回しにする

方向性は真逆：個人・国民を主役にするか、国家・伝統を最優先するか

国家と個人の関係：二つの考え方の違い

近代立憲主義の考え方 国家は人権を守るための道具

考え方の順序
個人 → **社会** → **国家**

個人

人は生まれながらにして
人権を持つ



- ・生命・自由・幸福の追求
- ・思想・良心の自由
- ・表現の自由 など

社会

個人が集まって社会を
つくり、支え合う



- ・協力・分担・ルールづくり
- ・互いの権利を尊重
- ・民主的な合意

国家（政府）

社会の秩序を守り、
人権を保障するために
つくられた道具



- ・人権を守る
- ・権力は制限される
- ・憲法や法律に従う

基本的な考え方

国家の目的は、個人の人権と自由を守ること。
国家が権利を侵害するなら、国家は正当性を失う。
→ 権力は憲法で制限され、国民は権利を持つ主体

歴史の教訓

国家が強すぎると、
人権が侵害される。
だからこそ、立憲主義で
権力を縛る必要がある。



目指す社会の姿

一人ひとりの人権が尊重され、自由に生きられる社会
多様性が認められ、少数者の権利も守られる民主社会



VS

人権・自由の
成り立ち

人は生まれながら
権利を持つ

共同体・国家が
あるから権利や
自由が成り立つ

国家の役割

人権を守るための
道具・手段

共同体をまとめ、
秩序や価値を守る
中心的存在

権力への考え方

権力は侵害の
危険があるので
制限が必要

権力は必要悪では
なく、社会を守る
正当な力

重視する価値

個人の自由・権利
多様性・自己決定

共同体の結束・
伝統・秩序・
国家への帰属

共同体重視の保守思想の考え方

国家・共同体があってこそ人権や自由が成り立つ

考え方の順序
国家・共同体 → **家族** → **個人**

国家・共同体

国や共同体が秩序や
価値を守る土台



- ・伝統・文化・歴史の継承
- ・国民の結束・愛国心
- ・安全・秩序の維持

家族

家族は社会の基本単位。
教育や道徳を育む場



- ・しつけ・教育・規律
- ・世代のつながり
- ・家族の絆・責任

個人

集団の一員として
権利や自由が保障される



- ・役割と責任を果たすこと
- ・共同体の中での自由
- ・個人の権利は制限もあり得る

基本的な考え方

国家・共同体の秩序や価値が守られてこそ、
個人の権利や自由は実現できる。
→ 共同体への貢献や調和を重視

歴史の認識

個人主義の行き過ぎは、
社会の分断や道徳の崩壊、
国家の弱体化を招く。
強い共同体が必要。



目指す社会の姿

伝統や価値を大切に、国民が一体となって支え合う社会
秩序や規律の中で、安心して暮らせる社会



どちらの考え方も一長一短があるが、バランスを欠くと人権や自由が大きく損なわれる危険がある。

近代立憲主義や自然権思想では

「人間であること」そのものが権利の根拠

国籍、民族、宗教、血統よりも、
人間であることを優先。



人間であること

国籍



民族



宗教



血統



すべての人は、生まれながらにして等しく権利を持つ

一方で、国家や民族、伝統を重視する思想では

「われわれ」という共同体の結束が重要。



われわれ（共同体）
の結束

すると、共同体を定義するために、



日本人とは何か？



日本文化とは何か？



日本の伝統とは何か？



こうした問いが
前面に出やすい



共同体の境界を意識することで、
「内」と「外」を区別する意識が強まりやすい

戦後体制は「外から与えられた」という認識

日本会議の認識

戦後の憲法、人権思想、国民主権、教育制度は、
占領下で導入されたものであり、
日本の歴史や伝統の連続性を断ち切った。



外から一気に導入

結果として…

- × 日本の伝統や価値観が軽視されてきた
- × 個人の権利ばかりが強調され、責任や義務が軽んじられた
- × 国民の一体感や愛国心が薄れてしまった

断ち切られた連続性



日本の歴史や伝統の
連続性を断ち切った

日本会議の主張

日本の歴史や伝統を取り戻し、
義務や共同体への責任を重視すべきだ。

重視すべき価値観



家族の絆を大切にする
家族や地域のつながりを重視



共同体への責任を果たす
自分だけでなく、社会や国家のために



国を思い、国に尽くす
国や伝統を尊重し、次世代に継承



道徳教育・伝統教育の充実
日本の価値観や文化を教育の中心に



権利だけでなく、
義務や共同体への責任を重視する
社会を取り戻すべきだ



日本会議の公開文書や主張では、

次のような表現が数多く見られます。

「家族を大切に」



「公共心を育てる」



「伝統を尊重する」



「美しい日本」



「日本人らしさ」



しかし、それらについて

「公共心とは
具体的に何か」

?

どのような行動や
価値観を指すのか、
明確でない。

「日本人らしさとは
誰が定義するのか」

?

誰が基準を決めるのか、
多様な考え方との
関係はどうなるのか。

「伝統の中で
何を残し、何を
変えるのか」

?

時代に合わせた
見直しの基準や
方法が示されていない。

という哲学的・制度的な問いに対して、



詳細な理論や定義、検討の枠組みが
提示されているとは言い難い。

多くは価値観や願いを示す表現にとどまり、
具体的な説明や検証のプロセスが見えにくい。



近代立憲主義では、 できるだけ明文化しようとする

権力や人権、国家、法律の限界を明確にし、
国民の自由と権利を守るため。

権力とは何か



権力は国民から、
委託されたもの。
三権分立で
権力を制限する。



人権とは何か



すべての人が生まれ
ながらに持つ権利。
侵すことのできない
永久の権利。



国家とは何か



国家の主権は国民に
ある。国民の代表が
政治を行う。



法律で何ができるか



法律は憲法に基づく。
憲法に反することは
法律でもできない。



明文化されたルールが、自由・権利・公正を守る土台となる

なぜなら、曖昧な概念ほど、 権力者の都合で解釈されやすいから。

曖昧なままだと、何が「正しいか」を権力者が自由に決められてしまう。

例



その結果…



だからこそ、**明文化し、誰もが同じ基準で判断できるようにすることが、
権力の濫用を防ぎ、私たちの自由と権利を守るのです。**



ここでの問い：国家とは誰か？

- 国家には口がなく、国民に指示することもない。
- したがって、彼らの言う「国家」とは「政府」のことではない。国家と政府は別の概念である。
- では、彼らは共産党が政権をとっても、それに従うのか？
- それとも、必ず自分たちの意思を反映する政府になると踏んでいるのか？
- それとも何か別のものを指しているのか？
- もし、日本の歴史と文化を国家というのであれば、それをどう扱うかを誰が決めたのか？

国家には**口**がなく、国民に**指示**することもない。

したがって、彼らの言う「国家」とは
「**政府**」のことではない。

国家と政府は
別の概念である。

国家

(抽象的な概念)



国家は、国土・国民・主権といった
存在の枠組みであり、
それ自体が何かを命令することはない。

政府

(政治を行う集団)



政府は、選挙や権力によって
決まる「政治の担い手」であり、
国民に対して指示や命令を出すことができる。

国家

(永続的・超党派的・国民全体のもの)
国土・国民・主権・文化・歴史など

国家は変わらないもの

- ・ 政権が変わっても続く
- ・ 国民全体の共有財産
- ・ 特定の思想や政党のものではない

政府

(一時的・特定の政党や
集団が担うもの)
法律・政策・行政・
税・規制など

政府は入れ替わるもの

- ・ 選挙や権力によって決まる
- ・ 政策や方針は変わりうる
- ・ 国民の代表であるが、
国民そのものではない

国民

では、彼らは**共産党**が政権をとっても、それに従うのか?

それとも、必ず**自分たちの意思を
反映する政府**になると踏んでいるのか?

それとも何か**別のもの**か?



共産党が政権をとった場合

それでも従うのか?

もし従わないのなら、
「国家のため」という主張は**矛盾**する。



現実には、思い通りにならないことの方が多い。
過信や思い込みは、現実とのギャップを生む。



「国家のため」という言葉の裏には、
別の意図や信念が隠されているのかもしれない。



大切なのは、**国家と政府を正しく区別**し、どのような政府であっても、国民として**自分の頭で考え、判断**すること。

もうひとつ、この人たちの混同

- 「日本軍は残虐行為をしていなかったとか、やむをない戦争だった」などという。
- 行為をしたのは、当時の政府・国家権力であって、国家ではない。まして、日本の歴史と伝統、まして日本人の血統・DNAとはまるで無関係。
- 国家、政府、日本の歴史を意図的に混同している。
- そして、あった・なかったという議論以前に、この話にわざわざいきり立つという行為自体に精神的問題が隠れていることを理解できていない

「南京虐殺はあった」と言うと、「**日本人を貶めるのか?**」と言われる

南京虐殺は
あった事実です。

日本人を
貶めるのか!



それは、当時の
政府・国家権力が
行ったこと

≠



日本の歴史・文化・伝統、
まして血統・DNAとは無関係



長く続いてきた企業



一時的に
ブラック企業になっただけ

その過去を**批判**して、
何が悪いのか?



こういう思考の人間は、
日本を自分と**同一化**しないと**不安**な
極めて弱い人間であり、
極めてフロム的である。

事実を直視し、過去から学ぶことが、未来の日本を強くする。



統一協会（旧統一教会）の思想のポイント

核心的な価値観



神中心の世界観

世界の歴史は神の摂理によって進んでいると考える



真の愛と家庭の重視

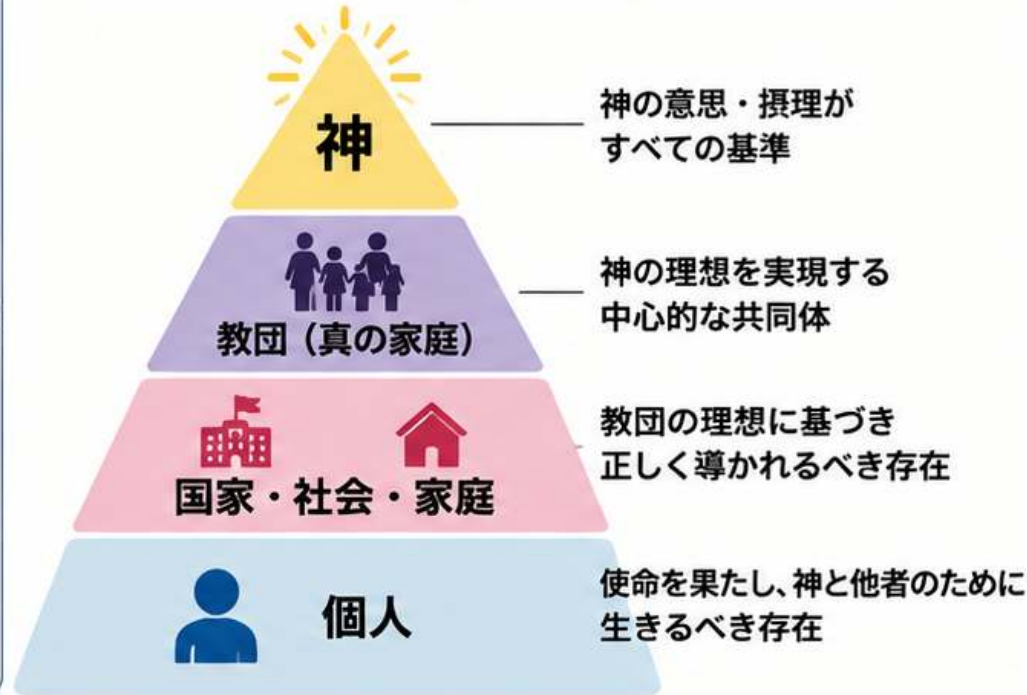
真の愛を実現する理想の家庭こそが平和の原点とする



平和統一の理想

神の理想に基づく一つの世界を実現することを使命とする

価値の優先順位（イメージ）



特徴的な考え方

● 歴史観

人類の歴史は墜落と回復の過程であり、最終的に神の理想世界が実現すると考える



● 使命感・献身

神の理想と教団の使命のために、自己の犠牲や献身を重んじる



● 反共思想

共産主義を神の理想に反する思想とみなし、強く対立する



● 終末観・再臨思想

メシア（再臨主）を中心に、人類救済と理想世界の実現を目指す



近代憲法思想との違い（簡単に）

自然権思想



人は生まれながらに権利を持つ

個人の権利よりも、
神の使命を優先

社会契約論



国家の正当性は人民の合意に基づく

国家の正当性を、
神の意思に求める

立憲主義



権力は憲法によって制限される

宗教的使命や神の理想を
憲法より上位に置きがち

民主主義



主権は国民にあり、政府は国民に従う

民主主義よりも、
神の秩序や教団の指導を重視



まとめ



統一協会の思想は、

「神の摂理に基づく理想世界の実現」を最上位の目的とし、
教団・家庭・国家・個人の役割を定める点で、
近代憲法思想（人権・自由・民主主義）とは
根本的に異なる価値観に立っている。

「愛国者」の正体

- 彼らが「愛する」のは、この日本国ではなく、大日本帝国、その政治体制。今の日本国は早く潰れてほしい。
- 騙されてはいけない。
- 私の思う真の愛国者とは、同胞の幸せを考え、彼らが十分な人生を生きられることを願う者である。



「本当の愛国心」と「偽の愛国心」は正反対！

左＝人権を守るヒーロー／右＝自由をうばう怖い権力者

◎ 本当の愛国心（人権ヒーロー）



人権はみんなの宝もの！
自由に意見を言って、
よりよい国をつくらう！

- 自由と平等を大切にする
- ちがいをみとめ合う
- みんなで国をよくする

✖ 偽の愛国心（自称「愛国者」）

ちがう意見はダメ！
国のために自由をけずれ！
→ 人権をうばう考え



- 反対意見をゆるさない
- 人を分けて対立させる
- かえって国をよわくする

人権を守ること＝国を大切にすること

自由・平等・安心をみんなで守ろう！



小中学生向け：人権を嫌う「愛国者」のひみつ
<https://www.jimakudaio.com/secret-of-patriots>

「愛国者」とは、支配層にとって好ましい国にするために、一般庶民に**思想注入**をする**役割を仰せつかった者**である

支配層（国の方向性を決める人たち）



自分たちに都合のよい国にしたい

愛国者（思想注入の担い手）



支配層の意図を、もっともらしい「愛国」「正義」「危機感」などの名で一般庶民に注入する

一般庶民（情報を受け取る人たち）



洗脳・同調・敵味方の分断
支配層にとって都合のよい国へ



「愛国者」は、国民のためではなく、**支配層のために働く思想工作者**である

支配装置としての宗教

- 支配者が権力を正当化するための道具として利用。
- 「神の意志＝支配者の意志」構図で服従させる。
- 精神的統制・秩序維持・反抗抑制の装置として機能。



宗教的信念の注入により人は**支配**できる

明白に宗教である必要はない。

人は小さく弱いので、支えてくれるものであれば、それに**頼る**。

信念を注入する



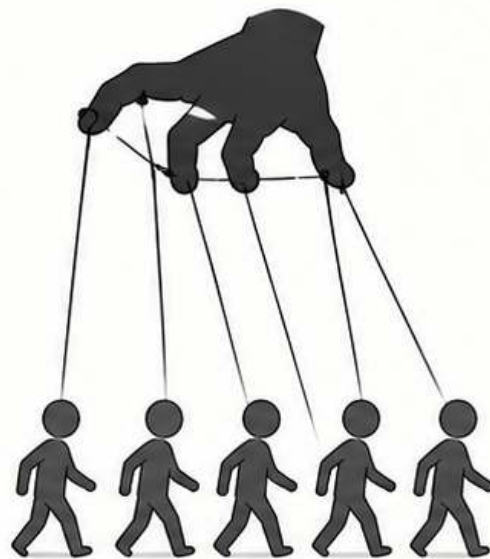
繰り返し伝え、
信じ込ませる

人は頼る



不安や苦しみの中で、
支えてくれるものに**頼る**

行動をコントロール



考えや行動が
思い通りに**操られる**

支配が続く



支配構造が維持・強化され、
人は**従い続ける**

信じさせることが問題なのではなく、**考えさせず、依存させ、従わせる仕組み**が問題である。

解放信仰 vs 支配信仰 — 信仰が向かう二つのベクトル

解放信仰宗教（自由・慈悲・覚醒）

内なる真理・仏性・良心を信じる

例：釈迦、老子、イエス、スピノザ、エックハルト



恐怖ではなく理解による超越

例：ガンジーの非暴力、仏教の無我思想、禅の悟り



個人の覚醒が社会の調和に波及

例：クエーカー、スーフィズム、トルストイ、一休、良寛



権威を超えて自由に生きる

例：禅僧一休、マイスター・エックハルト、
アナキスト的信仰者

支配信仰宗教（服従・恐怖・統制）

外なる権威・教祖・国家を神聖視

例：国家神道、教皇権神授説、北朝鮮の金王朝崇拜



教義と服従による秩序維持

例：中世カトリック審問制度、イスラム法の政治利用



支配の正当化と搾取の制度化

例：統一教会、オウム真理教、幸福の科学、
国家宗教体制



権威の永続と異端の排除

例：ナチズムの神話化、現代の政治カルト運動

解放信仰：内面の覚醒 → 自由・慈悲・共感

支配信仰：外的権威への服従 → 恐怖・搾取・排除

ナチスと国家神道の疑似宗教化構造比較図

ナチス

共通構造

国家神道

1) ヒトラー神格化（救世主化） ・誕生日祝祭・個人崇拜・胸像／写真の掲揚	権威の神聖化 ・指導者（主権）＝信仰対象としての正当化	天皇現人神化 ・御真影の掲揚・宮中祭祀の強調
2) 党大会・祝祭の再編 ・党大会／誕生日／戦没追悼の“神聖日”化	時間の聖別化 ・国家暦の再編で帰属と陶醉を周期的に強化	紀元節・新嘗祭・大嘗祭 ・地方社の一斉奉祝と式典化
3) 象徴の聖化 ・鉤十字・ハイル敬礼・血旗の“聖遺物”化	象徴崇敬と礼拝行為化 ・視覚シンボルで権威を感性的に内面化	日の丸・菊花紋・教育勅語 ・掲揚・拝礼・奉読による“聖典”化
4) 忠誠宣誓・政治典礼化 ・ナチ式典・敬礼・誓約の儀礼統制	儀礼の国家化 ・祈り→忠誠へ置換し異議を難化	神社参拝・修祓・官国幣社 ・行政儀礼としての参拝・奉祝
5) アーリア神話・千年帝国 ・選民史観で戦争と犠牲を“必然”化	救済史の政治利用 ・歴史を“摂理／天命”の物語に翻訳	天壤無窮・皇祖神話 ・“天命”としての戦争正当化
6) 教育と青年団 ・ヒトラーユーゲント・制服・行進	教育による信仰内面化 ・通過儀礼化して忠誠を人格化	修身教育・儀式登校 ・教育勅語暗唱・校門拝礼
7) 異端排除・粛清 ・教会統制・焚書・ゲシュタポ	異論＝背信の構造 ・批判の道德化による封殺	宗教団体法・不敬罪・治安維持法 ・宗教を国家の下位に従属

明治政府による国民統合の二本柱と現在も続く影響

疑似・人工宗教

国家神道

天皇の神格化

「現人神」を中核とする国体観

神仏分離・大教宣布

国家が教化を主導（1868-1870）

教育勅語への注入

忠孝・忠君愛国の道德化（1890）

信仰の形を装った統治正当化のための思想的洗脳

教化のための鵜呑み教育

プロイセン式教育

学制発布（1872）

国家主導の就学体系と師範養成の基盤

修身科・規律化

忠誠・服従・犠牲の徳目を内面化

国家に奉仕する臣民の育成

上意下達・教師は国家の代弁者

思考を封じ、国家忠誠を受け入れさせる

国家統合

忠誠心の涵養

国民総動員の基盤

明治以降の国民総動員体制（精神 × 制度の融合）

学校儀礼（奉安殿・拝礼）／皇国民教育／国体明徴運動へ連結
信仰と教育の融合により、精神と知性の双方を国家が掌握

現在も自分の足で立てない
権威主義的人格の者が
「正解はこれ」と飛びつく

一部がこちらに流れるが、鵜呑み教育には目を
向けず、「自虐史観教育だ」と叫ぶのみ

鵜呑み教育は現在も続き、
正解を求めるだけの思考
停止人間を生み出している

ここまでのまとめ



- 王権神授説・優生思想・宗教的信念で権力者は庶民を支配
- ロックは自然権を打ち出し、人権が最上位という思想に
- 米独立、仏革命などで、近代立憲主義が発展
- 日本人は、1947年にコペルニクスの転回を経験。それが常識になったはずだった。
- しかし、戦後まもなくから元に戻そうとする勢力がうごめいてきた
- 現在の日本の状況は、人間心理を操る目的に最適なものになっている
- 自ら進んで、喜んで人権(自由)を放棄してしまう理由は、未だに語られることがなく、全く警告されていない。歴史的に明らかであるにも関わらず。

私の意見

- 自らの感情がどこから生まれているのかを把握できない人ほど、詐欺に引っかかりやすい。
- 優れた詐欺師ほど、その感情を巧みに操ることに長けている。
- 危険信号
 - 強い恐怖を感じる
 - 異常な焦りを感じる
 - 強い怒りを感じる
 - 強い期待や欲望を感じる
 - 罪悪感や義務感を感じる
 - 特別扱いされて気分が良い
 - 正義感を感じる

権威主義的人格～ 支配されることを好み、自ら奴隷になる

我々の中に潜む厄介な性向



「自由は嫌い、縛られたいの」

- 自由であれば、好きに決められるが、その責任も負わねばならない。それが怖い。つまり、自由に耐えられない
- 上に従い、下には命令する
- これが支配構造を維持する心理的土壌
- 参考
 - エーリッヒ・フロム 『自由からの逃走』
 - テオドール・アドルノ 『権威主義的人格』
 - など



エーリッヒ・フロム：自由の重荷 → 逃避 vs 成熟した自由

自由の重荷による不安から、人は「逃避の三類型」へ流れるか、「成熟した自由」を選ぶ。

近代の自由の獲得

身分の解体／選択の拡大／個の自律

不安・孤立・無力感

意味の空白／帰属の喪失

成熟した自由＝生産的志向

責任／理性と愛／連帯と個の保持
「在る」を軸に能動的に関わる

逃避の三類型

権威主義

強者へ服従／弱者の支配
「命令される安心」

破壊性

不安の源を壊して「力」
の感覚を得る
悪・排外・虚無

機械的一致

「皆と同じ」で不安回避
仮面の自己／市場適合

帰結：権威主義的人格と社会的再生産

- ・内面化された権威への従順／弱者への攻撃（権威主義的人格）
- ・教育・組織・市場による同調・服従の再生産（社会性格）

エーリッヒ・フロム
ERICH FROMM
日高六郎／訳



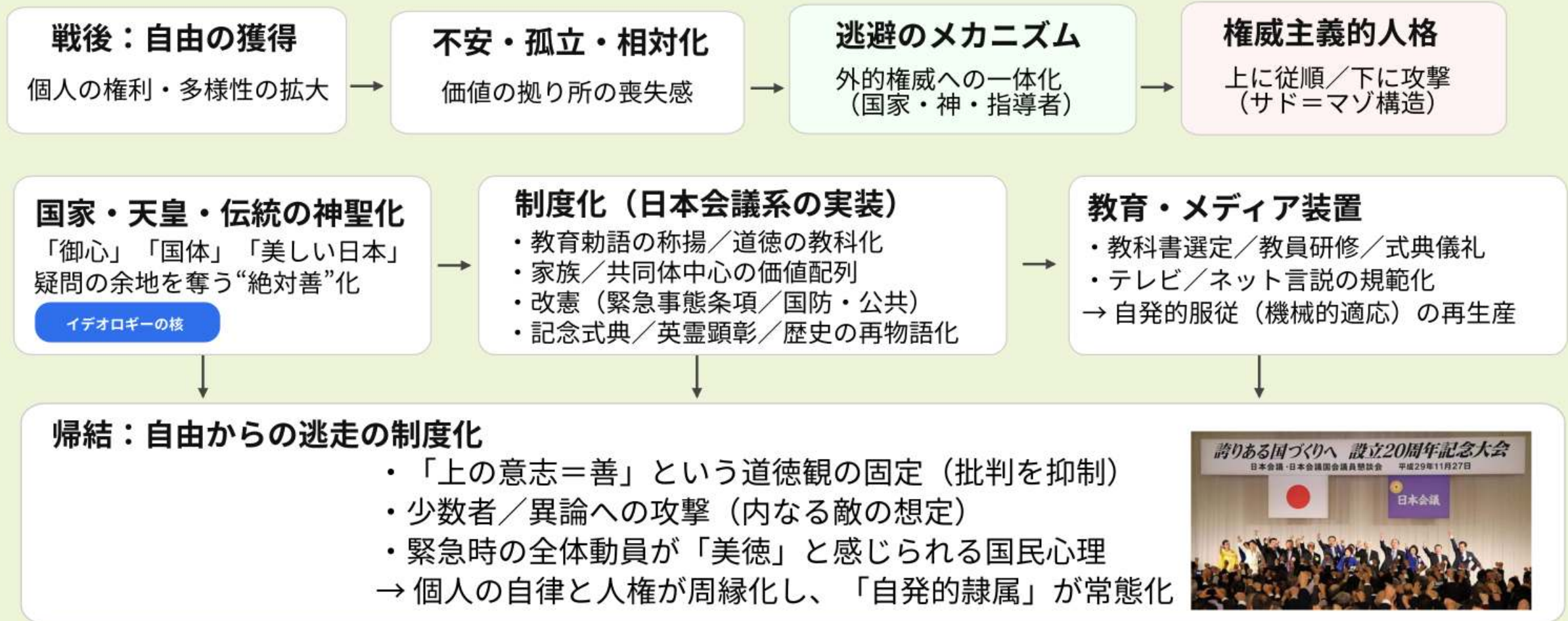
自由からの
逃走
ERICH FROMM
FLEEING FROM FREEDOM



近代の自由は身分からの解放だが、同時に抛り所の喪失と不安・孤立をもたらす。人はこの重荷から逃れるために①外的権威への服従と同一化、②世界や他者への破壊性、③「皆と同じ」へ自己を溶かす機械的一致に傾きやすい。それに対し、成熟した自由とは、責任を受け、理性と思考と愛の実践で自我を統合し、連帯を保ちながら個の境界を守る生き方である。それは所有の拡大ではなく「在る」ことを軸に、仕事・対話・創造を通じ能動的に世界へ関わる姿勢。逃避が短期的安心と自発的隷属を強めるのに対し、成熟は不安への耐性を育て、判断の自立と他者への配慮（ビオフィリア）を同時に高めていく。

フロム理論 → 戦後保守（日本会議系）へのマッピング

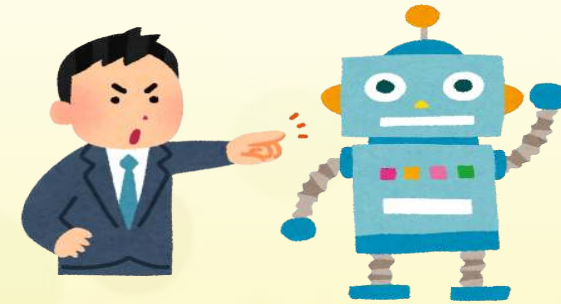
「自由の重荷」→ 権威への逃避 → 神聖化 → 教育・法での制度化



戦後、日本人は自由を得た一方で不安と孤立も抱えた。そこから多くは外的権威に寄りかかる“逃避”へ向かい、国家・天皇・伝統を「絶対善」と神聖化し、教育や法でそれを制度化していく。結果として、上への服従と同調が美德化され、異論が抑制される。他方、成熟した自由は、責任と理性・愛に基づき、連帯を保ちつつ個の自律を守る道である。

権威主義的人格を思い切り噛み砕くと

- 「大人になり損ねた赤ん坊」
→ 自分で立つこともできず、常に誰かに抱っこ・おんぶを求める。
- 「指示待ちロボット」
→ 上から言われたことしかできず、自分の頭で考えない。
- 「鎖につながれて安心する犬」
→ 自由に放たれると不安で、鎖につながれている方が落ち着く。



ハンナ・アーレントの「凡庸な悪」

- ホロコースト実行責任者のアイヒマン：血に餓えた怪物ではなく、命令実行に忠実な普通の官僚。「自分はただの歯車だった」「命令に従っただけ」
- 特別な悪意ではない
 - 不安と秩序要求
 - 権威への服従
 - 同調と排除
 - 思考停止



正義ほど恐ろしいものはない

正義をなしたい欲求と虐殺



自身の価値を確認したいから正義をなす

- 「敵」との対比によって正義行為で自身の価値を感じる
 - 敵＝悪い／自分＝正しい
 - 敵を罰する＝自分の優越と価値の証明
- リーダーの示す悪を殲滅することで正義をなす
 - 共産党や異論を持つ者を排除し、ユダヤ人を虐殺したナチス
 - 関東大震災時に「井戸に毒を入れた」と朝鮮人虐殺
 - 秩序を乱すとされた「魔女」を焼き殺した魔女狩り
 - 「ゴキブリ」のツチ族を殺すことが正義のルワンダ虐殺
 - 共産党が秩序を乱すとしてインドネシアで大量虐殺

共通するのは自分勝手な物語～ 客観的事実はどうでもいい

● 奈良の鹿問題

- 根拠なく「中国人観光客が鹿を虐待している。中国人悪い」
- 現地の人の証言「そんな観光客見たこと無い」
 - 店舗の25年従業員、10年のガイド
- この証言を否定、後に証言者を見つけ出して嫌がらせ
- 客観的事実はどうでも良く、自身の「正義ストーリー」を追い求めるだけ
「悪をやっつけた価値ある私」



リナた @Ri_Ri_lily · 1日

この人何も悪いことしてない...
ただ質問されたから「自分は見たことがない」と答えたただけだよ？
それだけで、お店のクチコミ荒らされて4.2から2.9まで落とされた。
皆マスコミを責めるけど、お前らのやっていることは本当に正しいことなのか？



牛まぶし三山

2.9 ★★★★★ (869) ・ ¥1,000～2,000
和食店・営業時間外

概要 クチコミ メニュー 写真 詳細 オー

Google でのクチコミの概要 ⓘ

2.9 ★★★★★ (869)

ネトウヨの精神構造・根本的矛盾



「日本軍は中国人を虐殺してない。
すべて中国のプロパガンダだ！」

その一方で...

中国人をヘイトする。
許されるなら中国人の
虐殺に向かうことは必至



ネトウヨ～歴史修正主義者（後述）

人は、自分を「善」で「価値ある存在」だと感じたい。
そのために、権威が示した「悪」を排除することを正義と信じるようになると、
歴史上繰り返し迫害や虐殺が正当化されてきた。



「善」と「正義」の名のもとに、恐怖・同調・権威によって、人は**残酷な行為**にも加担してしまう。

歴史は繰り返す

- ・ナチスのユダヤ人虐殺
- ・関東大震災時の朝鮮人虐殺
- ・魔女狩り・ルワンダ虐殺
- ・インドネシアでの大量虐殺 など

人間の欲望のひとつ

「ひとかどの人物でありたい」

=自分には価値がある、重要な存在だと思いたい

健全に満たされると
プラスの力に



努力・成長の原動力

向上心を持って学び、
自分を高めようとする。



才能や個性の発揮

自分の得意なことを活かし、
価値を生み出す。



社会への貢献

人の役に立つことで、
自分の存在意義を感じる。



互いに認め合う社会

一人ひとりが尊重され、
みんなが生きやすい社会に。

自己実現へつながる

歴史が教えること



権力者や指導者は、この「ひとかどの人物でありたい」という欲求を利用して、
人々を集め、動かしてきた。



だからこそ、自分の欲求を理解し、
冷静に考えることが大切。



認められたい

社会の中で
重要な存在に
なりた

自分の人生に
意味を持ちたい

自分には
価値があると
思いたい

この欲求自体は
善でも悪でもない

人が努力したり、学んだり、
社会に貢献したりする原動力になる。



強く刺激されたり、利用されると
危険な方向に

「正義の側」に立つことで
自分の価値を感じる

「自分は正しい、偉い」と思い込む。



肩書きや集団に依存する

「愛国者」「革命家」「救世主」などの
肩書きで、特別な存在になった
気分になる。



「敵」を批判・排除する

敵を攻撃することで、
自分の善や価値を確認する。



権威や集団からの承認に依存する

「あなたは正しい」と言われることに
安心し、考えることをやめてしまう。



歴史修正主義の欺瞞

客観的事実はどうでもいい
最終的には国家神道（宗教）に導くのが狙い



つくる会教科書：教科書の顔をした「政治ビラ」

- 神話を歴史に混ぜ込む：「神武天皇が日本を建国した」
- 戦争犯罪をなかったことに：「侵略」を「進出」に言い換え。
- 加害の歴史はあいまいに：慰安婦・南京虐殺など
- 植民地支配を恩恵に書き換える
- 竹島・尖閣を「日本固有」と断言し、政治的主張をそのまま子どもに→経緯には主張の対立がある
- 強制連行・朝鮮人虐殺などはごっそり削るか超簡略
- 「日本は悪くなかった」と言い張り、免罪装置として機能



この教科書を押し付けようとした「つくる会」運動

- 宗教右派「キリストの幕屋」によるバックアップ
 - 教科書採択の場面で、教育委員会や学校に圧力
 - 会員動員による集会や街頭運動、各地でのロビー活動
 - 幕屋は戦前からの国家主義的・親天皇的な信仰を持ち、反共・反左翼を強く掲げ、つくる会の歴史観と親和性が高い
 - 「つくる会」内部文書や関係者証言でも、幕屋の組織力がなければ運動持続は困難だったとされる
 - つくる会元代表藤岡信勝も公然と認めている事実

キリストの幕屋と言え

2023/10：イスラエル・ハマス戦争開始に際し、
「イスラエル支持」のデモ

ニュース / 最新の話

渋谷のイスラエル支持集会、「キリストの幕屋」が 動員参加

10月 14, 2023 18:14 Asia/Tokyo



11日、東京・渋谷のJR渋谷駅前で、シオニスト政権イスラエルを支持する集会が開かれました。しかし、SNS上に拡散した集会の動画に映っていたのは、多数の年配の日本人男女が在日シオニストらよりも前に出て、イスラエル旗を振ったり、ヘブライ語の歌を歌ったりする異様な光景でした。彼らの正体を探りました。

ガザに落とす爆弾に「イスラエルに栄光あれ」



つくる会などの目的： 過去の免罪と支配装置復権

- 「日本軍は悪くなかった」「侵略ではなく解放だった」
→国家神道を「正当だった」と受け入れやすく
- いきなり「国家神道に戻れ」と言えば反発される
- 過去の美化により、国家神道的価値観（天皇中心・犠牲を美德とする共同体思想）を再び受け入れさせる狙い

私が見る歴史修正主義者の矛盾点（一部）

- 言論の自由を利用して言論の自由を否定する方向へ（帝国憲法体制理想化）
- 都合の悪い史実は否定するのに、王権神授説（万世一系）というでっちあげは肯定（『古事記』『日本書紀』）
- 戦後に自虐史観を教育されたと言う。一方で、戦前戦後を通じての「鵜呑み教育」を批判しない。結局「どの物語で国民を洗脳するか」にすぎない
- 「天皇の戦争責任」を否定し「軍部が暴走した」「朝日が戦争を煽った」と否定的言説の一方、「自衛のためのやむなしの戦争」「アジアを解放した」と肯定的な言説。この二つは両立しない
- 百人斬り競争を否定するが新聞報道は事実。当時の日本国民が、「中国人は人間ではない」と考えていたことの証拠。

そして、どういうわけか。。

歴史修正主義は必ずセットで！



歴史修正主義は学術的議論ではなく、プロパガンダ目的
これらのセットは偶然ではなく、同一イデオロギーからの必然

愛国ビジネス

権威主義的人格者がホイホイ
集まる「愛国ホイホイ」



菅野完（たもつ）氏の見解



愛国だ！

と言えば、馬鹿がすぐに集まってくる



「愛国心」を煽れば、すぐに客がつく

愛国ビジネスの基本構造（感情だけで動かす）

感情だけでいい。

論理や専門知識は不要

怒り・不安を刺激するとファンが

客層固定化

一度ついた「愛国層」は
離れにくい（数字が稼げる）

低コストで量産可能

「日本すごい」「あの国は終わり」
だけで成立

反論が宣伝になる

批判は「自分たちが正しい証拠」
と処理され拡散

司法書士かようまりの ネットウヨの研究 2934

カヨウマリノ：ネットウヨの研究 2934

youtube.com/watch?v=G3pmOy...



愛国ビジネスの典型的パターン

感情（恐怖/誇り）で動員し、愛国心を商品化、具体策より情緒を優先

1. 愛国心の「商品化」

祖国存続・英霊を掲げる

- ・「祖国」「英霊」を看板に支持/献金を誘導
- ・感情を組織や商品に変換（グッズ、講演、会費）
- ・愛国心を動員資源として扱う

2. 恐怖×誇りの二重操作

恐怖：滅亡/侵略

誇り：英霊/民族

- ・不安植え付け（危機の常態化）
- ・誇りで高揚感（自己正当化）
- ・恐怖→誇りの往復で依存と同調を強化

3. 具体策よりも情緒優先

曖昧スローガン：
「国力再生」「誇りの教育」

- ・検証可能性の低い標語を連呼
- ・政策/コスト/実効性の議論は回避
- ・高揚感が主商品＝批判思考の抑制

3要素の連結で「動員の回路」を形成



成果：動員と収益化

支持・参加・票の獲得
行動の呼びかけ/同調圧力

資金調達・収益化
会費/献金/物販/講演



凡例：青＝誇り/同一性 赤＝恐怖/危機 黄＝注意/リスク 緑＝成果

愛国ビジネスの仲間たちの商品化マップ：不安／誇り／不安＋誇り

不安を商品化

保険・セキュリティ産業

病気・事故・犯罪・災害の恐怖
(正当なリスク商品だが煽り販売に注意)

美容・健康商材

老化・肥満・病気の不安を刺激
過剰期待・根拠薄弱に警戒

危機便乗商材・サービス

感染症・災害時の便乗
(除菌万能 等)
恐怖訴求→即決誘導

誇り（承認）を商品化

高級ブランド・体験商材

地位・優越感・帰属意識の販売

自己啓発・成功商法・ インフルエンサー塾

「あなたは特別」承認欲求を刺激

ナショナル・ アイデンティティ商品

「日本すごい本」
「愛国グッズ」など

二重操作：不安＋誇り

宗教ビジネス

地獄/不幸の恐怖＋
救済/選民の誇り

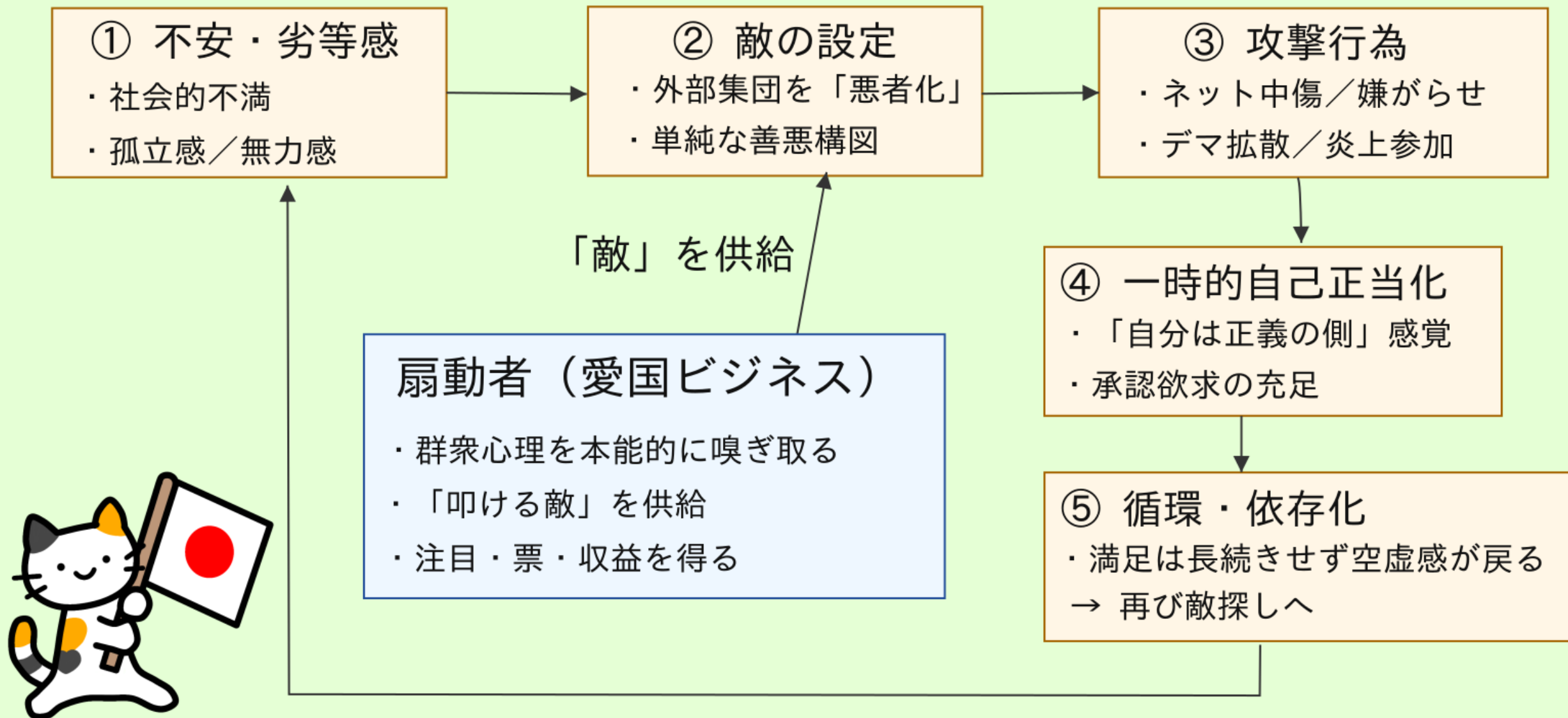
投資詐欺・MLM

貧困の恐怖＋成功者の
誇りで囲い込み

愛国ビジネス/ 政治プロパガンダ

「祖国が危ない（恐怖）」＋
「我々は誇り高い民（承認）」

排外主義の需要(ネトウヨ)と供給(愛国ビジネス)の関係



愛国ビジネスにおける言説の型

情動操作・自己正当化・信仰化の各要素が循環し、支持層を固定化させる構造

敵を作る系

「中国が攻めてくる」「韓国が日本を貶めている」
「左翼・マスコミが日本を滅ぼす」「内部の裏切り者」

誇りを煽る系

「日本人は素晴らしい」「世界で一番優れた民族」
「英霊が日本を守った」「日本精神を取り戻せ」

二元論・排除型

「愛国者か売国奴か」「保守か反日か」
「日本人か外国勢か」

被害者物語系

「日本は戦勝国に騙された」
「憲法はGHQの押し付け」
「日本人は洗脳された」「自虐史観から目を覚ませ」

逆転正義型

「加害者にされた日本こそ真の被害者」
「侵略戦争ではなく解放戦争だった」

宗教的言語化

「英霊」「神州不滅」「天皇陛下の御心」
「日本は神の国」

これらの言説は感情的同調・被害意識・信仰的正当化を連鎖させ、
「理性より信念」を優先する構造を形成する。

平気でうそをつく人たち

M・スコット・ペック

平気でうそをつく人たち～虚偽と邪悪の心理学



平気でうそをつく人たち

嘘つきの特徴

- ・自身の過ちを認めない
- ・他者をスケープゴートにする
- ・表面的には善人で立派に見える
- ・嘘を守るために新たな嘘
- ・人生全体が虚構で覆われる
- ・他者は同じ人間ではなく
家具やアクセサリの類でしかない
- ・騙しても痛みがなく、罪悪感もない
- ・他者は支配・管理の対象
目的を果たすための手段

- ・悪人ほど自身を善良・立派・有能と装う
- ・他者からは誠実・正義感ありと思われる
- ・問題が起きると責任を他者に押し付ける
- ・自身は清廉・正しい立場を維持
- ・ためらいなく「家具」を切り捨てる
- ・人間支配の欲求が強く、自然に権力を握る
- ・周囲は「対立すると危険」と自己防衛
周囲の沈黙や迎合により立場をさらに強化
- ・上手に立ち回る嘘つきが出世しやすい
- ・誠実な人がむしろ犠牲になる
- ・だから上の立場になりやすい

人は「善人」の仮面
に騙されやすい

M・スコット・ペック『平気でうそをつく人たち』



要するに

- 他者が自分と同じ人間とは思っていない。家具やアクセサリ程度と認識。
- いくらでも嘘をつき、悪いことが起こると他者をスケープゴートに
- 人間支配の欲求が高く、上の地位に行きやすい

別研究では、サイコパシーは人口の1～4.5%

※嘘・操作・他者の道具化という“危険な振る舞い”は
「平気であそ」の人と重なる

宗教右派暗躍の歴史



第1期：明治期～戦前

国家神道体制の確立と宗教右派の国家統合

制度（制度設計・法制・教育）

- ・教育勅語（1890）
- ・内務省神社局／文部省による神社・学校統制
- ・神社非宗教扱い（国家管理・政教分離の外側化）
- ・宗教取締／検閲／出版・結社の統制
- ・治安維持法（1925）
- ・国家総動員の制度基盤の整備

国家神道体制（神道は宗教に非ず。国家儀礼である） 信教の自由（宗教）とは別次元の“国民の義務”とされた

- ・天皇を中心とする国体の神話化と国家正統性の宗教化
- ・神社を国家装置（象徴・儀礼・動員）の枠外宗教として位置づけ
- ・学校教育・儀礼・祝祭日を通じた忠誠・服従の涵養
- ・個人の内面に国家を内面化（「天皇の赤子」観念）
- ・スローガン：神州不滅／英霊／国体明徴

動員・統制（思想統一と戦時体制）

- ・国体明徴運動（1935）と天皇機関説事件
- ・国家主義団体による街頭宣伝・圧力
- ・靖国・護国神社による英霊顕彰の制度化
- ・戦争遂行の精神動員（学校儀礼・神事・報国）
- ・異端・異論の弾圧、学問・報道の統制

神社界

- ・官国幣社制度の裾野
- ・儀礼・祝祭・学校行事と接続

民衆の信仰と感情を国家の戦争機構に
供出した存在となった

仏教右派（日蓮主義など）

- ・護国運動・皇道主義の理論補強
- ・大日本仏教会系の動員線

生き残りのため「愛国仏教・報国仏教」
へと転向。国家の精神的動員の実務

右翼団体・軍部

- ・玄洋社・黒龍会など
- ・街頭宣伝／直接行動／検閲圧力

出力（社会的帰結）

- ・国民統合の宗教的基盤／服従と忠誠の内面化／戦争動員の精神的支柱

明治国家は「神道を宗教外」とする枠組みで内面の忠誠を制度化し、宗教右派・右翼・軍部を結束させて精神支配と戦時動員を実現

明治政府による国家カルト — 天皇神格化と教育勅語

信仰を国家支配に転化し、庶民が逃げ場を失うまでの精神統制プロセス

国家カルトの創出 王政復古と廃仏毀釈で宗教多様性を破壊し、天皇を唯一神格とする体系を構築
(意図的な国家プロジェクト)
→ 信仰を国家支配の基盤とし、政治と宗教を一体化

「天皇の言葉」とされるが、
実際には政府高官が「ありがたい言葉」を仕立てあげた。
天皇はほぼ承認しただけ

国家神道＝国家カルトの中核装置

神社を国家の洗脳センター化／神職はカルト教義伝達者として機能

村祭や儀式を通じて庶民の心を「神の国」へ服従させる

洗脳教育体系（修身・儀礼・唱和）

「天皇は神」「疑問は罪」— 思考停止を徳とする教育

学校はカルト宗教施設化し、子どもを信者として育成

教育勅語＝カルト教義の聖典

天皇が「神のように」道徳を語り、疑義は許されず

「忠孝・義勇・服従」を信仰と一体化し、思想統制の核に

逃げ場なき「カルト宗教国家」に生きる一般庶民

生まれながらに「神聖権威」に囲まれ、「疑問＝罪」「服従＝正義」と刷り込まれる

家庭・学校・神社すべてが教義伝達装置／国家カルトの完全支配下

→ 思考停止と自己犠牲が“美德”とされる精神構造へ固定

※ 国家そのものが巨大なカルト宗教組織として庶民を包み込み、思想・感情・行動を支配した。
教育勅語はその“教義文書”であり、信仰装置の完成形であった。



第2期：戦後～冷戦期

“支配と従属の構造”を維持するために、言葉と旗印を入れ替え
宗教を介して“国民の精神世界を再び統御”しようとした

戦後制度・法制（枠組みの変化）

- ・ 1945：神道指令（国家神道の廃止）
- ・ 1946：日本国憲法（信教の自由・政教分離）
- ・ 1947：教育基本法（初代）
- ・ 1951：宗教法人法（宗教法人の再編と自由化）
- ・ 地方社社会教育・PTA・地域行事の再構築
- ・ 「宗教としての神道」への転換と再配置

反共連合と保守再編（精神的支柱の再構築）

- ・ 「自由主義／反共」を旗印に宗教右派と保守政治勢力が再接続
- ・ 神社本庁を中核に、仏教右派・新宗教右派が連携基盤を再編
- ・ 勝共系団体や国際反共ネットワーク（例：APACL等）との接続
- ・ 教育・メディア・地域組織を通じた「愛国＝反共」フレーミング
- ・ 宗教的言語を世俗政治へ翻訳（道徳／伝統／秩序の名目）
- ・ 票田・資金・動員の三位一体化

運動・統合（政治的実装）

- ・ 「自由と民主主義のための国民会議」等の保守運動
- ・ 勝共連合（国内での反共キャンペーン）
- ・ 慰霊・靖国参拝正当化／戦争記憶の再編
- ・ 道徳・家族・伝統を通じた価値観の再教育
- ・ 地域保守ネットワーク（神社・町内会・婦人会等）
- ・ 「反共＝愛国」ナラティブの制度化を志向

神社本庁系

- ・ 神道の再編中核／地域組織と儀礼の再接続
- ・ 保守政治家との連携窓口

内部では、「神道は宗教ではなく日本文化の
核心である」とする旧来の思考が温存

新宗教・仏教右派・勝共系

- ・ 反共運動の実動部隊（講演会・機関紙・学習会）
- ・ 票田・資金・ボランティア動員

保守政治家・メディア

- ・ 議会・教育・文化政策で価値観を制度化
- ・ 言論空間の「愛国」フレーミング強化

出力（社会的帰結）

- ・ 宗教右派が「反共／愛国」の名目で精神的支柱を再獲得
- ・ 政治動員（票・資金・人材）と価値観の再固定化
- ・ 後の「日本会議」的再編・改憲運動の基盤形成

国家神道は廃止されたが、「反共」を軸に宗教右派と保守政治が再結束し、精神的支柱と動員装置を回復

第3期：1990年代～2000年代初頭

日本会議の成立と保守ネットワークの再編（宗教右派の政治的再結集）

背景・環境変化（再編を促す土壌）

- ・ 冷戦終結後の保守イデオロギー再定義
- ・ 歴史教科書論争／戦争記憶の再編圧力
- ・ 少子化・家族観の動揺への「道徳回帰」要求
- ・ 新宗教右派の政治化・右派雑誌の台頭
- ・ 地方議会・教育委員会を巡る運動の活性化
- ・ 保守系シンクタンク／学者ネットワーク形成

日本会議（1997）－大同団結のプラットフォーム

- ・ 神社本庁系／仏教右派／新宗教右派の再結集
- ・ 「伝統・家族・国家」を価値中核に据えた政策連携
- ・ 国会・地方議会・教育現場へのロビー／請願ルート整備
- ・ 票田・資金・人的基盤を横断接続（神道政治連盟等）
- ・ 憲法改正／教育改革／靖国参拝正当化のアジェンダ設定
- ・ メディア・言論空間での文化戦争フレーミング強化

政策・運動の実装（制度化の前段）

- ・ 教育基本法改正（2006）への地ならし
- ・ 国旗国歌の取扱い強化／「愛国心」言説の常態化
- ・ 地方議会決議・請願運動の全国展開
- ・ 靖国・慰霊と外交言説の接続（正統性の神話化）
- ・ 保守イベント／講演会／署名運動の恒常化
- ・ メディア連携でのフレーム設定と争点管理

神社本庁系・神道政治連盟

- ・ 地域神社ネットワークを動員基盤として再接続
- ・ 国会・地方議会への働きかけのハブ

新宗教右派・仏教右派・右派運動団体

- ・ 講演会・署名・学習会で動員（票・資金・ボランティア）
- ・ 文化戦争型言説の拡散と地域浸透

保守政治家・シンクタンク・メディア

- ・ 政策化・制度化（教育／歴史／家族政策）
- ・ 言論空間で争点管理とフレーミング

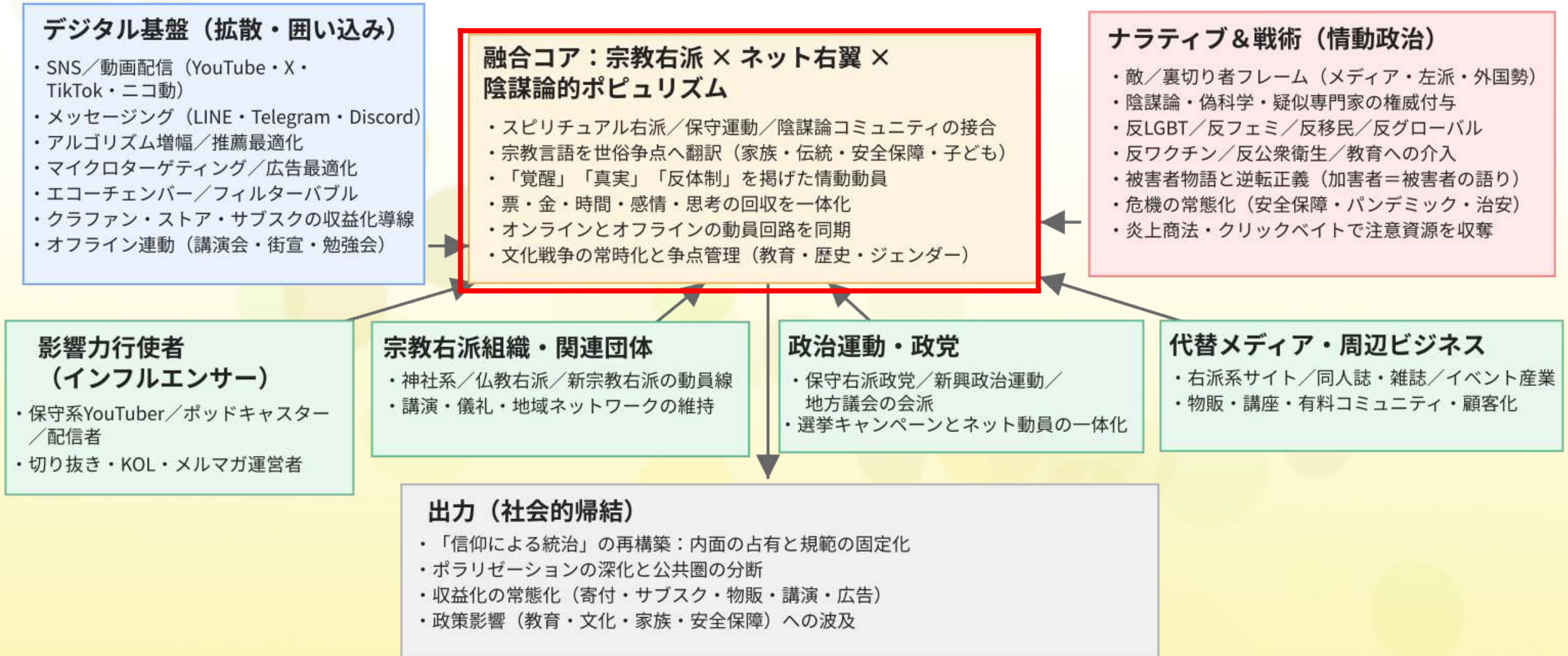
出力（社会的帰結）

- ・ 改憲運動の前段整備：価値観・人脈・動員の三位一体化
- ・ 教育・儀礼・言論の領域で「保守的規範」の再固定化
- ・ 次期政権（2000年代後半以降）への強い影響力

冷戦終了で共産主義が脅威でなくなり、宗教右派は「敵」を失う。新たに登場したのが「戦後体制＝悪」という物語。戦後に地下で続いていた宗教右派の連携が、公然たる「日本会議」を要に再結集。社会の底層から支配を再構築する戦略

第4期：2010年代～現在

ポピュリズムとネット宗教右派の融合（情動政治＋収奪モデルの確立）



デジタル基盤と情動ナラティブが結合し、宗教右派は動員・収益・政策影響を同時に最大化するエコシステムを形成。
これまでの「組織的支配構造」を、デジタル空間とポピュリズムの波に乗って“感情支配”へと変化させた→共感的・情動的支配へ
“信仰”が“コンテンツ”に、“布施”が“課金”に変化

宗教右派における支配と搾取の構造

精神的支配

目的：思考の停止と従順化

- ・個人の内面（信仰・感情）の占有
- ・神話／恐怖／救済による服従の形成
- ・「愛国」「伝統」「覚醒」の語で誘導
- ・思考より忠誠を強調（疑問の抑制）
- ・敵／裏切り者という二元論の内面化

社会的支配

目的：異論排除と反抗精神の抑圧

- ・教育／家庭／地域を通じた規範の固定
- ・「道徳」「家族」「忠誠」を美徳化
- ・同調圧力と逸脱者のスティグマ化
- ・情報の遮断とエコーチェンバー化
- ・儀礼・行事で共同体への帰属を強化

政治的支配

目的：権力維持と制度的支配

- ・政党／官僚／メディアとのネットワーク
- ・宗教団体を通じた票・資金・動員
- ・憲法・教育・文化政策で制度化
- ・ナショナリズムで正統性を神話化
- ・危機の物語で例外状態を常態化

経済的搾取

目的：資金源確保と階層支配

- ・献金／寄付／イベントで資金吸収
- ・無償奉仕（時間・労働力・専門性）
- ・情報商材／講演ビジネス／物販
- ・政治献金の回路化と利権循環
- ・不安商法（終末・危機・外敵の物語）

すべての層が相互補強し、最終的に「信仰による統治」と「従順な国民／信者の量産」を実現

ナショナリズムからグローバリズム への移行は必然

ナショナリズムに
騙されてはいけない



ナショナリズム vs グローバリズム — 共通する精神構造

「旗が違うだけ」で個人に犠牲を求める同型の物語

ナショナリズム

- 国家という「大きな物語」を絶対視
- 「国益」のために個人の犠牲を要求
- 動員：忠誠・服従・戦争・同調圧力
- 象徴：国旗・国歌・国家神道
- 合言葉：「国のために尽くせ」

グローバリズム

- 国境を越える市場・秩序を絶対視
- 「効率・競争」のために個人の犠牲を要求
- 動員：規制緩和・緊縮・監視インフラ
- 象徴：国際機関の旗・企業ロゴ
- 合言葉：「世界のために従え」

共通の精神構造

- 絶対的な「大きなもの」（国家／グローバル市場）への服従
- 個人の自然権・尊厳より上位に置かれる「旗」（国旗／機関旗・企業ロゴ）
- 物語への同化 → 自己犠牲の正当化（旗が変わるだけで構造は同じ）

「個人」を捨てさせ、アリのような存在に

共通する攻撃の本質 と 攻撃の結果

(ナショナリズム／グローバリズムの比較から)

共通する攻撃の本質

- 1) 自律性の奪取：自分で考え・選び・責任を負う力を弱らせる
- 2) 自然権の軽視：「国益／世界秩序」の名で生命・自由・尊厳を後回しに
- 3) 思考停止の強要：象徴（国旗・ロゴ・機関名）に疑問を差し挟ませない
- 4) 責任転嫁の装置化：「命令に従っただけ」「仕組みに従っただけ」で倫理判断を放棄

攻撃の結果

- ▶ 主体性の喪失と「凡庸な悪」の再生産（アーレント）
- ▶ 権威・仕組みへの盲従が常態化し、個人の判断・責任が解体される

ナショナリズムとグローバリズムの本質は同じ

- ナショナリズムとは個人の自由を忘れ、「国」に資すること。中央集権体制
- グローバリズムとは個人の自由を忘れ、「世界」に資すること。中央集権体制

過去の寡頭支配層は、教化された手下を国旗の下に結集させた。国旗によって彼らの本来の自由を手放しがちなことを熟知していたからだ。今日の寡頭支配層が手下を新たなグローバリスト秩序へと導くのに必要なのは国旗の色を変えることだけである。彼らがよく知るように、任意の団体に忠誠を誓うよう人々を仕向けられれば、あとは一つの集団（国民国家）を別の集団（地域政府）に、そしてまた別の集団（世界政府）にすり変えるだけの問題にすぎない。

個人は国家機構に組み込まれる単なる歯車であるという集産主義「社会全体の共有・協力」を重視する思想。社会主義・共産主義の土台だが、ファシズム・全体主義もこの要素を持つ」という暴君的な種子から芽生えたナショナリズムとグローバリズムは、同じイデオロギーの異なる形態として現れている。グローバリズムはナショナリズムの反対語ではなく、むしろ逆だ。グローバリズムはナショナリズムの論理的帰結なのである。



国家という「虚構」

1. 国家の実体はどこにもない

国家は物理的な実体ではなく、言語と記号による共同幻想（collective fiction）
「日本」「国民」「主権」などは、法と教育が作り出した想像の産物
バネディクト・アンダーソンの「想像の共同体」と同型の構造



2. 国家の「正当性」を生み出すトリック

人々が個人として持たない暴力の権限（殺人・拘束・略奪など）を
国家は「社会契約」や「安全保障」の名で“合法的”に獲得する
しかし、誰もその契約に署名したことはない — これは神話的正当化である



3. 民主主義の擬制

選挙は支配の源ではなく、支配を正当化するための儀式
投票は「あなたがこの構造を承認しました」という免罪符として機能
実際には、制度・資本・情報操作が政治を決定している



4. 結果：支配と服従の成立

国家という幻想を信じた人々は、自らの服従を「正義」と信じ始める
暴力・徴税・戦争が「合法」となり、支配が再生産される
→ 国家は実体ではなく、「信仰」によって維持される幻想的秩序

国家幻想から人間中心社会への転換



国家に代わる「自律的社会」の想像

自己組織化（**self-organization**）の思想

アナーキズムは「無秩序」ではなく、非強制的秩序（order without rulers）。
協働・相互扶助・水平的ネットワークによって秩序は自然発生する（クロポトキンの「相互扶助論」）
民主主義ではなく「自治（autonomy）」がキーワード。



社会の構成原理を再定義する

従来の国家社会 と アナーキズム的社会 の対照

従来の国家社会	アナーキズム的社会
強制的ルール	合意的ルール
権威に依存	相互承認に依存
所有と管理	共有と利用
代表制	直接参加
統治	協働

→ 目標は「支配なき秩序」。自治・相互扶助・水平ネットワークで生活の現場から立ち上げる。

私の訴え

「国家は仕方なくある」現実認識から出発する

国家が存在するのは事実。しかしそれを絶対視しない。

「国家に依存しないで生きる部分」を拡げることが、市民的アナーキズムの実践。

「依存から自治へ」の心理的転換

国家という“親”への依存を断ち、自分たちが世界をつくる主体になる。

政治参加」よりも、「生活参加」「関係参加」。

コミュニティガーデン、地域通貨、フードシェア、オープンソース運動などはその萌芽。

「自由」と「責任」を分かちがたくする

国家に自由を“与えられる”構造を脱し、自ら自由を引き受ける勇気を育てる。
自治とは「自由の重さに耐えること」。

国家は幻想である。

しかし、その幻想のもとで生きる私たちには、幻想の外で社会を作る力がある。
依存を減らし、自治を増やす。その一步が、支配の終わりであり、自由の始まりだ。

自生的秩序（Spontaneous Order）とは？

やさしい定義

誰かが中央で設計・指令しなくても、たくさんの人の自発的な行動がからみ合い、結果として秩序やルールが自然に形づくられること。

身近な例

- 市場（価格）
- 言語（文法）
- 慣習・マナー
- 慣習法・コモンロー

ポイント

- ・ 個々人の知識は分散している → 集めて管理するより、現場で活かすと強い
- ・ 試行錯誤を通じて進化 → うまくいく慣行が残る
- ・ 一律の設計より柔軟 → 変化に適応しやすい

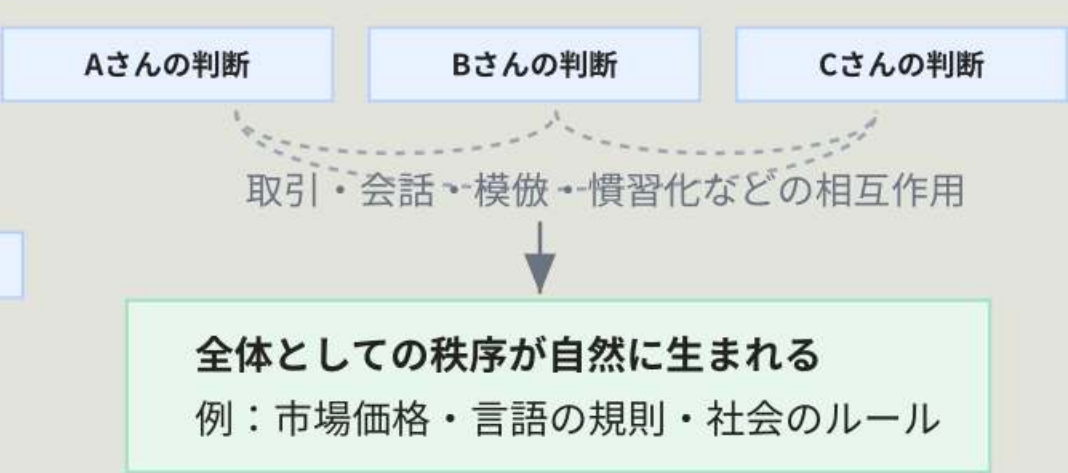
※ この見方を広めた経済学者：フリードリヒ・ハイエク

設計的秩序との対比

項目	自生的秩序	設計的秩序
成り立ち	自然に発生（進化的）。試行錯誤で洗練される。	中央の意思・計画により意図的に構築。
例	市場・言語・慣習・慣習法（コモンロー）	法律（成文法）・組織・五カ年計画・都市計画
強み	多様性・分散知を活用。変化に強くレジリエント。	目的を素早く具体化。責任の所在が明確。
注意点	ルールが見えにくい。調整に時間。	硬直化しやすい。現場の知を取りこぼしがち。

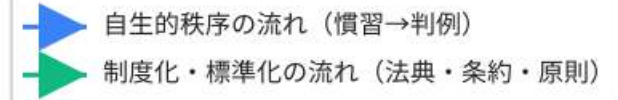
まとめ：自由な相互作用の積み重ね → 結果として秩序が「自生」する

仕組みのイメージ



Law Merchant (Lex Mercatoria) → 慣習法 (コモンロー) → 現代国際商法

国家の制定法や条約よりも先に、商人の慣行から自生的に形成された秩序



古代～中世前期：地域慣習・村落法

共同体の慣行・相互扶助・境界の取り決めなど
→ 国家の成文法に先立つ、生活のルール

中世：Law Merchant (Lex Mercatoria)

商人の国際的慣行：港湾・市場・ギルドで共有
商人裁判所・フェアコート／迅速・実務的・越境的
→ 「商人が商人を裁く」自生的秩序

近世：コモンローへ統合 (商法の形成)

Law Merchant が一般裁判所で適用され、
判例として固定化 → Common Law (商法) に吸収
例：手形・為替・危険負担・商慣行の拘束力 など

注意：これだけが成文法 (紙に書かれた法)

近代：国家の制定法・国際条約

国内：民法・商法・会社法などの法典化
国際：通商条約・統一私法条約 (海運・手形 ほか)
→ 慣習の多くが「制度化・明文化」される

現代：新しい Lex Mercatoria (国家を超える実務原則)

国際商事仲裁：当事者の合意＋国際商慣習で判断 (ICC, SIAC 等)
UNIDROIT原則・INCOTERMS・UNCITRALモデル法 などソフトロー
→ 国家法を横断する「実務の共通語」として機能

ポイント

- 1) 商人社会の慣行 (Law Merchant / Lex Mercatoria) は、国家の法律や条約よりも早く成立した自生的秩序。
- 2) その後、判例として固定化し、各国の商法や国際条約に吸収・標準化された。
- 3) 現在は、国家法を補完する「新しいLex Mercatoria」が国際仲裁や契約実務で生きている。

要するに：人々の取引と信頼の積み重ねが、法より先に秩序をつくった (自生的秩序)

ネトウヨ言説の有害性と対抗可能性

1. 無自覚な「国家信仰」の再生産

「侵略される」「中国・韓国は敵だ」といった主張は、「日本」という人格的存在が怒り・恨み・防衛意志を持つかのようだが、実際には、そんなものは存在せず、国民の集合的信念によって作られた記号的存在にすぎない。つまり、「国家という幻想を現実として語る」行為になっている。



2. 権威への依存と「擬似的自己の拡張」

国家同一化は「自由からの逃走」の一形態。個としての不安や無力感を「強い国家」「誇りある日本」に一体化することで回避し、自己を外部の権威に溶かす。



3. 「敵」の設定が国家を現実化する

国家という虚構が最も強固になるのは、外部の敵があるとき。「侵略」「反日」と語るたび、「日本」という虚構が実在するかに感じられる。国家は「われわれ」と「かれら」の線引きでしか維持されない。敵意の共有は国家信仰の宗教的儀式であり、政治ではなくアイデンティティ維持の儀式。



4. 「無意識の国家装置」としての言説

国家装置は暴力や法だけでなく、「言葉」「感情」「教育」を通して再生産される。ネトウヨ的ナショナリズムはこの“回路”の一部として働く。彼らは国家を守るというより、国家という幻想の信徒として更新し、その行為自体が支配の魔法を維持する呪文になっている。



5. 対抗の方向性（アナーキズム的視点から）

国家という前提を疑うことから始める。「日本」「外国人」「敵」「国益」などの言葉が何を隠すかを見る。「私たち」が何を共有するのかを国家の外で定義し直す。

国境も、血も、民族も、私たちを分けるための幻だ。

私たちは、同じ痛みと喜びを分かち合う人間として、
支配ではなく尊重、排除ではなく共生の社会を選ぶことができる。



国家幻想から人間中心社会への転換

国家・民族・血統の物語

- ・ 国家／民族／血統は記号的物語（実体ではない）
- ・ 「われわれ」と「かれら」を分ける境界を生成
これこそが真の分断
- ・ 血統主義／排外主義／差別の再生産
- ・ 「敵」の想定により国家信仰が強化
- ・ 支配と動員（アイデンティティ儀式化）
- ・ 権威への依存／「自由からの逃走」（フロム）
- ・ 言葉／感情／教育を通じた国家装置の再生産
- ・ 「日本」「国益」等の言葉が現実を隠蔽する
- ・ ネットウヨ的ナショナリズム＝再生産回路の一部

転換

人間中心の相互尊重・共生

- ・ 人間／生命／尊厳という共有の現実 に立脚
- ・ 国旗より尊厳、国境よりつながり
- ・ 相互承認／相互扶助／水平ネットワーク
- ・ 命令ではなく合意から生まれるルール
- ・ 「権威なき秩序」＝自治（autonomy）
- ・ 尊重／連帯／協働にもとづく共生
- ・ 差別や排外を前提にしない安全と安心
- ・ 自由と責任を分かちがたく引き受ける市民
- ・ 幸福の共創（participatory well-being）

行動原則：国家という前提を疑い、言葉が隠すものを点検し、国家の外で「私たち」の共有基盤を定義し直す。

自生的秩序と自治という概念は、21世紀の我々には過激に思えるかもしれないが、数千年もの間、世代を超えて受け継がれてきた永遠の知恵なのだ。中国の哲学者である老子は2000年以上前に『道德経』第57章でこう述べている。

"人々を法律で支配してはならない。暴力や監視で縛ってはならない。

無為によって、彼らの心をつかめ。

なぜなら、道徳やタブーが増えるほど、人々はより深く苦しむようになり、

銃やナイフが増えるほど、人々は派閥に分かれて争うようになり、

芸術や技術が増えるほど、人々は時代遅れになってしまい、

法律や税金が増えるほど、盗みや腐敗がまん延するからである。

しかし、何もせずにいれば、人々は互いに思いやり合う。

法を作らなければ、人々は自然に公正にふるまう。

利権を持たなければ、人々は協力し合う。

欲望を示さなければ、人々は調和して暮らす[21]。"



『第19章 未来への手紙』 より



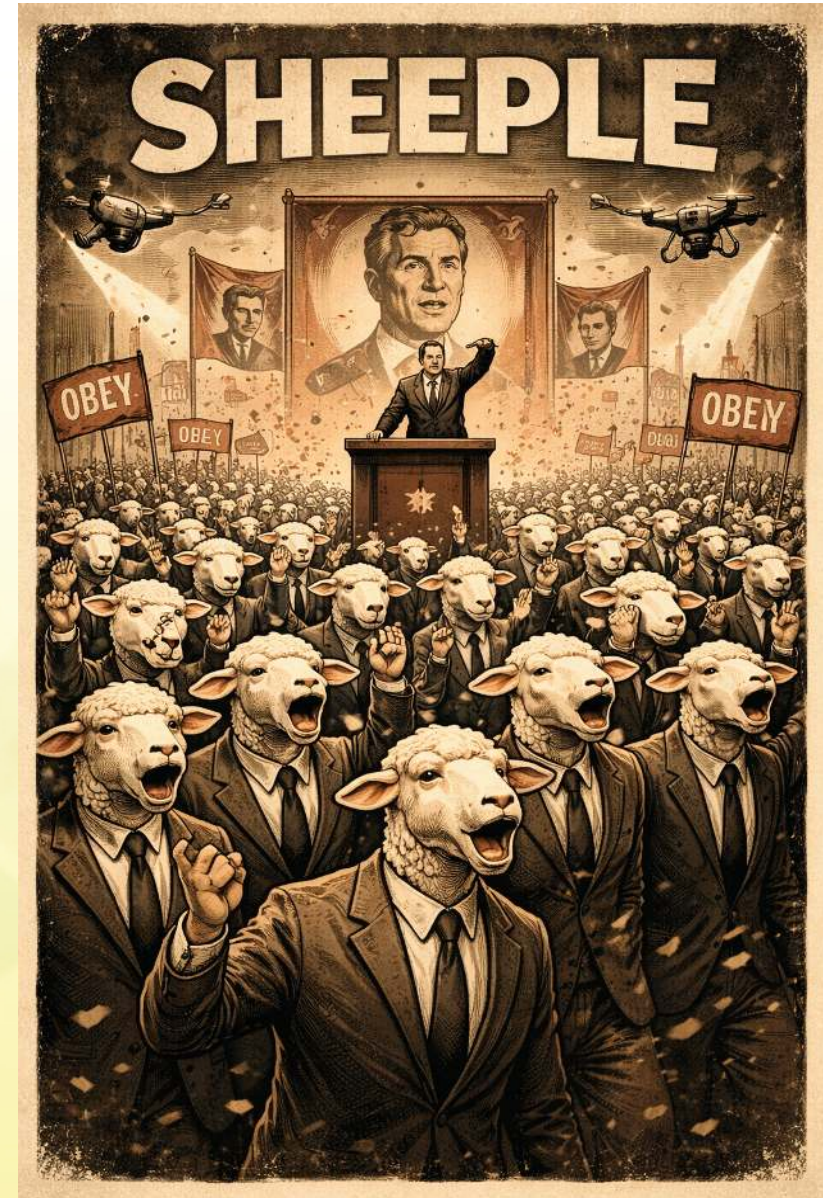
2020年4月11日（コロナ禍まっさかりの頃）

いや、私は仲間のためにこの文章を書いているのではない。まだ来ぬ人々のために書くのだ。我々が生みの苦しみを味わっている未来のディストピアの住人のために。かつては自由だった人類の残党のために。想像すらできない奇跡によって、このボトルに入った電子メッセージに出くわすかもしれない人々のために。

ほぼ絶望的なのはわかっている。この文章が来るべきネットページに耐えられる可能性は低いだろう。あらゆる可能性に逆らって、仮にこのメッセージがあなたのデジタル海岸に流れ着いたとしても、この文章があなたに理解される可能性はさらに低い。英語を理解できないからではなく、これらの言葉がもはやあなたの辞書にはないからだ。自由、人間性、個人。

確かに、いまだにこの現実を否定する人もいる。しかし、彼らは自身を騙しているだけで、真実と認めるのを恐れているのだ。その多くは、権威に疑問を投げかける者を「陰謀論者」と叫ぶような古い条件付けの下にいる。

この類の人をシープル[Sheep, Peopleを組み合わせでSheeple。従順で自分の意見がなく大勢に従う人々]と呼ぶ。現代では、信頼を続ける大衆は、警察国家の軍靴を履いた牧羊犬に飼われ、政治的羊飼いに誘導されている。シープルは一度も想像したことがなかった、いつの日か羊飼いたちが自分たちを屠殺所に連れていくとは。



もちろん「シープル」は嘲笑の言葉だ。しかし、この言葉は単に愚かさを表すだけではないと思いたい。これはまた、ナイーブさ、無邪気さにも通じている。我々は本来、信頼できる優しい生き物だ。平和的で、協調性がある。これは軽蔑すべきことではない。実際、我々の中に捕食者（悪意ある者）がいなければ、この欠点は美德として数えられることだろう。しかし、私はそう言いたいのではない。こう言いたいのだ。
抵抗せよ！争え！闘え！



許可などいらない、売買にも、集合にも、意見の表明にも、家を出ることも。ミスリードしている連中が恐れなさいと指示するいかなるウイルスの「無症状キャリア」でもない。白衣を着た誰かに命令されたからといって避難する必要もない。これを理解してほしいが、あなたがどこにいて、誰と会い、何を買ひ、24時間365日何をしてるのかを知る権利など政府にはなかった。政府にはそんな能力さえなかった。好きなときに家を出られた時代があったことを知ってほしい。好きな時に好きな場所へ行き、好きなように仕事をする。隣人と自由に会う。集会、抗議する、パーティーする。皆さんに言いたい。生きなさい！自由な人間が生きるように！

ああ、私は何を書いているのだろうか？ この言葉。この言語。あなたには意味がわからないだろうか？ あなたの時代には存在しない概念だろうか？

結局のところ、あなたを責めることはできない。あなたは信頼を続けてるし、ナイーブで平和的なのだ。まるで羊のように。でも、あなたがそうなったことに、私はどんなに泣いたことか。私はそれを回避しようとした。どうか信じてほしい。本当に努力したのだ。自由の灯は消えようとしている。それを私は目撃している。私の子供たち、あるいは子供たちの子供たち、あるいはかつて自由だった人類の残党が、神に見放された未来でこの言葉を掘り起こすことがあるなら。許してくれ、私は君たちを失望させた。我々は皆、君たちを失望させたのだ。しかし、これを覚えておいてほしい。あなたの先祖の血があなたの静脈を流れる限り、人間の自由のランプは永遠に消滅させてはならない。

親愛なる羊よ、輝かせなさい。輝かせ続けるのだ。

